5　試験研究

5.1　担当の活動概要

（1）温暖化対策担当

人為起源の温室効果ガスによって引き起こされる気候変動（地球温暖化）の影響は、現在、世界各地で顕在化している。埼玉県においても、地球温暖化と都市部のヒートアイランド現象が複合的に作用した結果、熊谷地方気象台の観測によれば、年平均気温は過去100年間で約2.34℃（熊谷地方気象台における1898～2025年の年平均気温より算出）上昇している。平成30年7月には災害級の猛暑となり、国内最高気温41.1℃を熊谷で観測した。また、令和6年の熊谷地方気象台の年平均気温は17.2℃となり、過去最高を記録した令和5年度と同値であった。さらに、令和7年度の熊谷の年平均気温は16.9℃となり、極端な高温傾向は依然として継続している。こうした気温上昇に伴い、熱中症による救急搬送者数の増加、農作物の品質低下、強雨の発生頻度増加など、多様な影響が報告されており、気候変動が社会・生活へ与えるリスクは一層顕在化している。このため、温室効果ガス排出削減による気温上昇の抑制（緩和策）に加え、気候変動がもたらす被害を軽減・回避するための適応策を積極的に推進する必要がある。

温暖化対策担当では、埼玉県温暖化対策課と緊密に連携し、本県および県内市町村の気候変動対策に資する研究を多角的に実施している。令和7年度には、独自開発した「インターネットにつながる暑さ指数計」を県内30地点に設置し、観測データに時間的な推移が分かる仕組みも付与することで、暑さ指数の時系列変化をより分かりやすく可視化した。これにより、夏季には埼玉県気候変動適応センター（SAI-PLAT）を通じてリアルタイムかつ経時的な暑さ指数情報を発信し、県民の熱中症リスク低減に一層寄与した。この取り組みは多くのメディアにも取り上げられ、県民による活用も進んだ。

また、競争的研究費を活用した研究として、環境再生保全機構の環境研究総合推進費による「気候変動下で激甚化する都市型水害の低減に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」など、複数のプロジェクトを推進した。行政令達事業としても、県および市町村の温室効果ガス排出量の算定、県内学校の百葉箱を活用した温度実態調査などを実施し、気候変動に関する基礎データの収集と情報提供を行った。

さらに、2018年12月に施行された気候変動適応法を契機として、本県では環境科学国際センター内に地域気候変動適応センターを設置し、その運営において本担当が中心的な役割を担っている。同センターは、気候変動の影響や適応策に関する情報提供を目的としており、令和7年度には「気候変動コラム」の連載や「埼玉県内市町村温室効果ガス排出量マップ」の掲載など、SAI-PLATにおけるコンテンツの充実を図った。

また、県内の高校生が気候変動の実態や影響について学び、主体的に考える機会として「高校生環境ワークショップ」を開催した。さらに、自主企画としてサイエンスカフェを3回実施したほか、出前講座等を22回行うことで、県民への情報普及・啓発にも積極的に取り組んだ。

加えて、県内19市町が設置する市町村地域気候変動適応センターとも情報共有を図りつつ、イベント実施などの共同事業を展開し、地域全体での適応策推進に貢献した。

（2）大気環境担当

南関東の北部に位置する埼玉県は、固定及び移動発生源から排出される大気汚染物質の影響を強く受ける地域である。さらに、内陸に位置する地理的特性から光化学大気汚染が発生しやすく、その影響も顕著であることが知られている。これまでの諸施策により、環境基準達成率が低かった二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、平成19年度以降はほぼ全局で達成し、その状況を維持している。一方で、光化学オキシダントは、依然として全局で環境基準非達成の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数も全国で最多水準にあることから、埼玉県における重要な課題となっている。微小粒子状物質（$PM_{2.5}$）については、平成23年度以降、環境基準達成率が緩やかに改善し、平成30年度以降は全局で達成を継続している。年平均値については、昨年度の9.5 μg/m^{3}から9.2 μg/m^{3}とほぼ横ばいに推移している。この値は、令和4年3月に策定された「埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～」において、大気環境保全施策の指標として設定された年平均値10 μg/m^{3}をわずかに下回っている。大気環境担当では、さらなる改善を目指し、$PM_{2.5}$を対象とした行政令達事業を継続するとともに、競争的研究費なども活用して、その化学組成や環境動態の解明を進めてきた。また、発生源解析では、地域汚染だけでなく越境汚染も含めた検討を行ってきた。

光化学大気汚染は、$PM_{2.5}$の二次生成にも大きく寄与することから、揮発性有機化合物（VOC)の個別成分の詳細な分析と環境動態解析を実施している。加えて、新たに導入した試料前処理装置を活用して、時間分解能を向上させた実態把握にも着手したほか、ドローンと小型センサーを活用し、上空における光化学オキシダントやVOC

等の調査にも取り組んでいる。

長期的暴露による健康影響という観点からは、有害大気汚染物質への対応も重要である。平成29年に発効した「水銀に関する水俣条約」や令和3年度施行の大気汚染防止法改正に基づく解体等における石綿の排出作業の規制強化を踏まえ、行政支援を行っている。また、令和5年度の「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」改訂に伴い、新たに実施が求められたクロムの形態別測定について、令和6年度の準備期間を経て、令和7年度から測定を開始した。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県をフィールドとした環境モニタリングを通じて、大気汚染物質の現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。これらを基盤として、自主研究課題として「気候にも影響する大気汚染物質の地域排出実態の解明」、「バイオエアロゾル観測研究基盤の構築：大気中微生物DNA濃度の計測」を実施した。さらに、国立環境研究所や地方環境研究所、早稲田大学、東洋大学等と連携し、広域大気汚染を対象としたPM2.5の化学成分の動態解析を継続している。

行政令達課題としては、有害大気汚染物質や各種化学物質等のモニタリングを実施するとともに、県及び市町村の行政現場における案件解決を支援している。加えて、民間企業との連携により、上空における大気汚染物質及び粒子状物質の新たな計測手法の開発を進めているほか、中国、韓国の大学との研究交流も継続している。

（３）自然環境担当

人類は、自然から多くの恵みを受け取り、生存している。大気中の酸素はもちろん、豊かな海や土壌、人間の食料もそのほとんどが自然からの恵みによるものである。近年、環境汚染や温暖化、開発、外来生物の侵入など様々な要因により自然環境が劣化し、自然からの恵みを支える生物多様性が失われつつある。このような状況下で、人類が生命を維持し存続するためには、生物多様性を保全するとともに、自然との共生を図ることが必要不可欠である。特に首都圏にある埼玉県では都市化が進んでおり、それゆえに自然との共生は特に重要な課題である。

自然環境担当では、「生物多様性に富んだ自然共生社会の形成」を目指し、主に3つの側面（「希少野生生物の保全に関する調査・研究」、「気候変動などによる生育環境ストレスが植物へ及ぼす影響に関する調査・研究」及び「自然環境情報に関する基盤整備と保全・管理への活用」）から自主研究や競争的研究費による研究に取り組んでいる。また、環境部みどり自然課と連携し、行政令達事業も推進している。令和4年度より、当センター内に「埼玉県生物多様性センター」が開設され、生物多様性保全担当が新設された。当担当職員は生物多様性保全担当も兼務し、業務に従事している。

令和7年度は、「湛水開始時期を指標とした水田地帯における生物の生息適地推定」と題した自主研究課題に取り組んだ。当該研究課題では、衛星画像を活用して埼玉県北部・東部地域の水田の湛水開始時期を推定し、季節ごとのサギ類の分布データと統合することで、サギ類の採餌適地の時空間分布を生息適地モデルにより構築した。

競争的研究費による研究（代表）は、「田植え時期の違いは水田食物網を改変するか？ミクロとマクロを結ぶ包括的生態系解析」および「奄美大島に生息する洞窟棲の絶滅危惧コウモリ類保全に向けた基礎調査」を実施した。また、東北大学、公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団等との共同研究も行った。

行政令達事業では、みどり自然課が所管する事業として、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種（ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、オニバス、ソボツチスガリ、アカハライモリ等）の保全対策を実施する「希少野生生物保護事業」、県内における主に特定外来生物の生息・生育状況等を把握する「生物多様性保全総合対策事業」に取り組んだ。「生物多様性保全総合対策事業」では、県民参加による「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を実施し、県内での被害状況を把握並びに公表を行った。また、クビアカツヤカミキリの被害木に対する樹幹注入剤の効果検証などを、地元の市町や団体と協働で実施した。

自然環境担当では、調査・研究事業や行政令達事業のみならず、様々な依頼講義、外来生物や生物多様性などに関する出前講座、SNSやマスコミによる情報発信などにも対応・実施した。

（４）資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当の業務は、産業廃棄物及び一般廃棄物に関する循環型社会形成に向けた埼玉県や国の施策の支援、並びに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究である。

行政令達事業のうち、産業廃棄物指導課が所管する事業では各環境管理事務所とも連携を図りながら、「産業廃棄物排出事業者指導事業」、「廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業」を実施し、産業廃棄物最終処分場の周辺環境の監視、廃棄物の不適正処理現場周辺の生活環境影響に係る調査、さらに廃棄物処理業者が抱える課題の解決に向けた助言等を実施した。資源循環推進課が所管する事業では環境整備センターとも連携し、「資源リサイクル拠点環境調査研究事業」、「廃棄物処理施設検査監視指導事業」、「サーキュラーエコノミー推進事業」を実施し、県営

最終処分場の適正な管理、自治体の廃棄物処理施設管理やリチウムイオンバッテリーの適正処理、民間事業者の太陽光パネルリサイクルやサーキュラーエコノミー推進に係る助言等を実施した。その他行政支援として、「災害廃棄物処理図上訓練」、県内自治体の廃棄物減量審議会委員や廃棄物処理施設建設検討委員等として活動し、県内の廃棄物処理に関わる循環型社会の構築に努めた。

自主研究事業としては、最終処分場の適切な廃止の実現を県内外に情報発信するための「一般廃棄物最終処分場の廃止に向けたガス調査方法の課題抽出及び情報発信」、プラスチック資源循環施策推進を支援するための「プラスチック資源循環施策における環境負荷量の定量と将来予測」、埋立地浸出水の処理改善を目指す「埋立地浸出水中窒素除去への吸着材の適用可能性の検討」を実施した。また、国立環境研究所とのⅡ型共同研究「廃棄物最終処分場の廃止判断と適正な跡地利用に資する多面的評価手法の適用に関する検討」を実施した。これらの研究を通して当担当の調査・解析能力の向上を図るとともに、国内外の研究機関や官庁等とも連携して研究を進めている。さらに、研究の一環及び研究成果のフィードバックの場として、資源循環推進課及び環境整備センターとともに県内最終処分場設置団体連携会議を開催した。

（５）化学物質・環境放射能担当

化学物質・環境放射能担当では、環境中の有害化学物質や、東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質に関する調査・研究に取り組んでいる。

埼玉県環境基本計画の主な取組には、「工場・事業場に対する規制遵守指導」や「ダイオキシン類対策の推進」など化学物質に関するものや、放射性物質の状況把握が挙げられている。行政令達事業では、環境監視業務として綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る古綾瀬川底質中のダイオキシン類等の調査、発生源周辺の大気中のダイオキシン類の調査、工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。法規制業務としては、ダイオキシン類発生源調査（排出水、排ガス、ばいじん等）を行った。みどり自然課の依頼により野鳥の不審死における胃内容物等の化学物質検査を行った。さらに、大気環境課と水環境課が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査などによる品質管理を行った。放射性物質の状況把握としては、大気浮遊じん、河川水、底質、土壌、降下物、浄水場の源水、蛇口水、製茶、魚類の放射性核種分析を行った。その他、出前講座や夏休み特別企画を実施し、化学物質の適正利用を県民に呼び掛けた。

国内で流通しているものだけでも数万種に及ぶといわれる多種多様な化学物質は、私たちの生活を豊かにし、健康で快適な生活をする上で欠かせないものとなっている。しかし一方で、使い方を誤ると人や環境に悪影響を与えてしまうものもある。そのため、事故や災害等によって有害化学物質が環境中に漏洩したときの備えが必要であり、埼玉県環境基本計画では主な取組のひとつに「化学物質の適正管理と災害対策の促進」を挙げ、当センターの研究所中期取組方針でも研究の柱のひとつに「環境面からの災害・事故への備え」を定めている。当担当では、これら危機対応や化学物質に関する様々な環境課題を解決するために、自主研究として「オンライン前処理を用いる迅速かつ高感度な化学物質スクリーニング分析法の開発」、「ICP-MS測定のN_2ガスを利用したコリジョン法の検討」、「ダイオキシン類の29TEF異性体を一斉に分離する測定条件の検討」を実施した。

競争的研究費による研究（代表）は、国立環境研究所、富山県立大学、東京都環境科学研究所と共同して「新規POPs候補物質メチルシロキサンの環境中濃度及び組成の歴史的変遷と将来予測」を実施した。また、環境省委託（環境研究総合推進費）により「多様化する化学物質リスクへの対応と持続的な環境監視に資するダイオキシン類分析法の開発」を実施した。その他にも外部機関とは、国立環境研究所等との共同研究や環境省等委員会、関連学会活動を行った。

（６）水環境担当

埼玉県は、母なる川「荒川」を始めとする諸河川が県の面積の約3.9%を占めており、その割合から全国でも有数の「川の国」といえる。そこで県では、県民が川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するための様々な事業を展開している。かつて典型的な公害である水質汚濁が問題となっていた県内の河川環境は、現在では大幅に改善されている。有機汚濁の指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）から見た環境基準達成率は、昭和43年度の水質調査開始以降、平成28年度には全水域で環境基準を達成し、初めて100%となった（同年度の全国の環境基準達成率は、95.8%）。そして、年により変動はあるものの翌年度以降も概ね90%前後の達成率で推移し、令和7年度は86%となっている。全県的に河川水質が安定して改善されたことを受け、令和4年度から令和8年度を計画期間とする「埼玉県環境基本計画（第5次）」では、施策の方向として「５　恵み豊かな川との共生と水環境の保全」を掲げ、「SAITAMAリバーサポーターズ」等を通じて、県民や企業等が行う豊かな川を守りはぐくむ活動の支援や、恵み豊かな川を更に実感できるような様々な取組が実施されている。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。行政の施策支援では、公共用水域に設定されている環境基準点等（河川15地点）における水質調査を継続して実施している。また、昨年度までこの事業の一環として、搬入される河川水試料等を対象に魚類環境DNA分析を実施しており、その調査結果を「埼玉県川のおさかな環境DNAマップ」として県水環境課からホームページで継続公開している。今年度はこれまでの全調査データを再解析・精査し、とりまとめた結果を改めて公開した。工場・事業場の排出水については、環境管理事務所が立入検査において採水した試料の一部について、分析委託業者とのクロスチェック分析を行うことで、分析結果の信頼性を担保する役割を担っている。また、毎年恒例となった県内の計量証明事業者等を対象にした水質分析精度管理調査は、令和７年度は、34機関（当センターを含む）の参加を得て、BOD（30機関）、シアン化合物（27機関）の標準試料を一斉に分析する形式で実施した。結果については報告会を開催し、精度管理に必要な情報共有を図った。さらに、異常水質事故（油の流出、魚類等のへい死、河川水の変色等）における原因物質の特定や分析などを行った。水道水源となっている河川等の水質事故においては迅速な対応が求められることから、水道部局等との部局横断的な連携を強化する目的で企業局水質管理センターとの水質事故研修会を実施した。特に今年度は、下水道部局の職員も研修に参加し、水質監視や異常時の分析について情報交換を行った。さらに、八潮市内で発生した道路陥没事故に伴う下水の直接放流先河川の水質モニタリングを昨年度実施したが、大規模な水質事故時の対応ノウハウを未来に伝承するため、当報に資料としてまとめた。また、担当職員の専門分野を活かす形で分担して、県政出前講座や公害防止主任者資格認定講習の講師を行った。

その他、研究事業では、自主研究として、「希少種ムサシトミヨからのDNA放出特性に関する検討」、「蛍光を用いた水質事故時の油検出法の構築と実用性評価」および「アナモックス反応を応用した実践的窒素除去方法の検討と課題整理」という、ネイチャーポジティブ、水質事故対応、脱炭素に対応した研究を実施した。また、行政施策支援や研究を推進するために、大学、企業、地方環境研究所等と連携するほか、国や民間の競争的研究費への応募を積極的に行っている。関連した取り組みでは、教育や施策合意形成手法に関連した研究も進めている。また環境学習の一環として、県内小学生を対象にした「川の感動♥体験」を都幾川くらかけ清流の郷（東松山市）で開催した。研究成果は、国内及び海外での学会発表や学術誌等での公表に務めるとともに、県職員の研修などによりフィードバックしている。

（７）土壌･地下水･地盤担当

埼玉県は、我が国最大の沖積低地である関東平野の中心に位置している。平野は土地開発が比較的容易である一方、河川の密度が高く、さらに地域によっては軟弱な地層が厚く堆積する場合も数多く見受けられ、河川災害や地震に脆弱な側面を持ち合わせている。第5次埼玉県環境基本計画では、SDGsの考え方も活用した環境・経済・社会の統合的向上を目指しているが、地球環境の変化とともに自然災害に対する防災・減災力の強化や強靱性（レジリエンス）の向上が求められている。また、埼玉県には火山灰堆積物、有機物に富む堆積物、海成堆積物など特徴の異なる様々な地質が存在し、その地質中には県民の生活を支える貴重な水資源である地下水が豊富に蓄えられている。一人一人の県民が「健康で心豊かな暮らし」を実現させるためには、自分たちの暮らす土地や環境がどのような特徴をもつのか科学的知識に裏打ちされた情報を自ら入手し、正しく判断できる環境を整備することが必要不可欠である。

土壌・地下水・地盤担当が所掌する業務内容は、①地質地盤情報を含む各種地理環境情報の整備・収集と情報提供、②土壌･地下水汚染対策と地下水常時監視事業の技術的な支援、③地中熱利用システムのための地下環境情報整備、④騒音振動公害に関する行政支援などに分けることができる。①については環境政策課、②については水環境課土壌･地盤環境担当、③についてはエネルギー環境課、④については水環境課総務・騒音・悪臭担当や市町村と連携して、行政課題の解決に役立つ研究や技術情報を提供している。また、①については、県民や各行政機関からの問い合わせに対して個別対応しているほか、Webを通じた一般公開も行っている。

担当としての目標は、第一に、県内各地域の重金属類や有機化学物質による汚染問題の地域特性を解析し、汚染機構や発生源を解明するとともにその対策技術を開発すること。第二に、正確な地下地質構造を踏まえた新しい地下水・地盤環境監視を実現することである。そして、第三に、地中熱エネルギー賦存量、現有技術、最新技術、経済性などを考慮した自然や社会への影響評価等から、本県の地中熱利用エネルギーのポテンシャルを解析して普及に役立つ情報を一般向けに提供することである。また、近い将来に発生すると予測されている大規模な自然災害に迅速かつ的確に対処することを目的に、防災に役立つ様々な環境情報を収集し、既存の地理環境情報システムを活用して提供することを目指している。このため、当担当では、自主研究課題として、「抗菌剤を適用したフランボイダル黄鉄鉱の酸化抑制手法の開発」、「震災時生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充による対応に関する研究」そして「太陽熱と地中熱による複合システムの有効性の検証」などを設定し、問題解決に取り組ん

でいる。また、外部機関との連携活動としては、(国研)産業技術総合研究所、秋田大学、(国研)国立環境研究所、東京農工大学、大阪公立大学など公的研究機関と共同研究を実施しているほか、県内の民間企業と共同で研究成果の社会実装化を目指している。一方、競争的研究費による研究では、日本学術振興会科学研究費助成事業による助成を受けた研究課題として、「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」、(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費による助成を受けた研究課題として、「環境動態モデルと実測による規制・未規制PFASの包括的な水道水源水質管理戦略と水質監視手法の構築」、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）による助成を受けた研究課題として、「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」などを実施している。

行政と連携した代表的な取り組みとして、地下水継続監視井戸の整理・統合があげられる。今年度は、県中央部大宮台地周辺の地下水窒素汚染を対象として、汚染帯水層の特定や発生原因の解析を実施した。研究成果を基に作成した継続監視井戸の整理・統合案をベースに、水質監視事業（地下水）の合理化を進めることとなった。また、令和６年度から水質監視事業で調査・分析を行っているPFOS及びPFOAについて、指針値を上回った地点で地下水周辺調査を実施し、得られた分析結果をもとに環境部水環境課に対して技術的な助言を行った。また、災害時地下水利用ガイドライン（内閣官房水循環政策本部事務局 国土交通省水管理・国土保全局水資源部）の策定などに有識者として係わり、自治体における防災井戸制度の普及促進を目指している。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

（18課題）

	テーマ名・期間	目 的	担 当 者
1	埼玉県内における暑熱分野の適応策の普及啓発手法に関する研究 （令和5～7年度）	独自に開発したIoT暑さ指数計による屋外の暑熱環境のモニタリング体制を構築し、暑さ指数の情報の発信を実施しているが、県民へ十分に周知や普及を行えていない現状がある。そこで、暑熱分野の適応策に必要な情報の整備を実施しつつ、効果的な県民向けの情報発信及び普及啓発手法の検討を行うことを目的としている。	大和広明 嶋田知英 武藤洋介 河野なつ美 山上晃央
2	地域気候変動適応策に資するための極端気象現象の長期再現実験 （令和6～8年度）	県内では2018年の熊谷や2022年の鳩山町で記録的な猛暑と大雨が観測された。このような極端気象現象は気候変動の進行に伴う激甚化・頻発化が懸念されているものの、地域気候変動適応策の立案に活用可能な将来予測や災害リスク情報は提供されていない。そのため、関東地方における極端気象現象の発生頻度や災害リスクの長期的な傾向を整備し、情報を提供する。	河野なつ美 嶋田知英 大和広明 山上晃央
3	天候パターン分類を用いた極端気象の発生率の統計的解析および予測可能性研究 （令和7～9年度）	埼玉県は熱中症リスクの最も高い地域のひとつであり、総観気象場と暑熱による災害が密接に関係している。総観気象場は全球規模の大気循環場の変動と相互作用している。本研究では、天候パターン分類とパターンの頻度変化からそれらの影響を評価するし、自然変動と温暖化影響という二つの視点から、現在・将来の気候変動と関東平野における局地気象・環境の理解と結びつけ、最終的に埼玉県の防災・減災に役立つ情報を得ることを目的とする。	山上晃央 大和広明 河野なつ美 嶋田知英
4	気候にも影響する大気汚染物質の地域排出実態の解明 （令和5～7年度）	メタン（CH_4）や黒色炭素粒子（BC）は短寿命気候影響因子であり、気候に影響する物質として大気汚染だけでなく気候変動（温暖化）の観点からも、大気中での挙動や排出実態を把握する必要がある。そこで、埼玉県を主とした地域スケールでのCH_4やBCの時間的・空間的な排出実態の推定やその手法の検討などを行う。	長谷川就一 米持真一 佐坂公規 松本利恵 市川有二郎 村田浩太郎
5	バイオエアロゾル観測研究基盤の構築：大気中微生物DNA濃度の計測 （令和6～8年度）	バイオエアロゾルは花粉や細菌、ウイルスなどの生物起源粒子で、大気汚染、アレルゲン、病原体、気候変動に関与する重要な研究対象である。本研究では、埼玉県におけるバイオエアロゾル研究の基盤構築を目的とし、大気中微生物DNAの取得手法の確立と実大気での濃度計測を行う。さらに、大気環境モニタリング調査への応用も検討する。	村田浩太郎 市川有二郎 長谷川就一 松本利恵 佐坂公規 米持真一 渡邊圭司
6	湛水開始時期を指標とした水田地帯における生物の生息適地推定 （令和5～7年度）	本県の水田では田植え時期が地域や圃場間で大きく異なり、その差は最大で2か月にも及び、生物の分布にも影響する。本研究では、合成開口レーダ（SAR）で撮影された衛星画像から水田圃場ごとに田植え前の湛水開始時期を推定する。野外調査で得られるサギ類とカエル類の分布データと組み合わせることでモデルを構築し、水田地帯における生息適地を可視化する。	安野翔 大和広明 牧貴大 米倉哲志 王効挙
7	一般廃棄物最終処分場の廃止に向けたガス調査方法の課題抽出及び情報発信 （令和6～8年度）	県内一般廃棄物最終処分場においてガス抜き管等からのガス放出量を実調査し、廃止基準への適合可能性を確認するとともに、実務上の課題を抽出・整理する。並行して「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」の改訂に資するとともに、県運用基準の見直し等の事務的な調整も図り、最終処分場の適切な廃止の実現を県内外に情報発信する。	長森正尚 長谷隆仁 鈴木和将 磯部友護

	テーマ名・期間	目 的	担 当 者
8	埋立地浸出水中窒素除去への吸着材の適用可能性の検討 （令和6～7年度）	廃棄物処分場浸出水は、汚濁成分によって減衰に差があり、特に窒素は、埋立終了後の維持管理が長期化し、設備過剰等により維持管理上の負担の一因となっている。そこで、本研究では、吸着材処理について、埋立終了後といった一時的な期間、生物処理の補助的な技術としての適用可能性について検討するため、吸着性能試験等、基礎的な情報把握を行う。	長谷隆仁
9	プラスチック資源循環施策における環境負荷量の定量と将来予測 （令和6～8年度）	埼玉県におけるプラスチック資源循環施策を対象として、マテリアルフロー分析（MFA）とライフサイクルアセスメント（LCA）を統合することにより予測モデルを構築する。そのモデルを用い、プラ新法により予想される一括回収等の分別収集の変更による温室効果ガス等の環境負荷削減量を定量的に評価する。	鈴木和将 磯部友護 長谷隆仁 川嵜幹生 長森正尚
10	ダイオキシン類の29TEF異性体を一斉に分離する測定条件の検討 （令和7年度）	ダイオキシン類の毒性等価係数（TEF）が設定されている29の異性体を定量するためには、現状では異なるキャピラリーカラムを用いて複数回のGC-MS測定が必要である。本研究では、1回の測定で29異性体を分離定量できる測定条件を検討する。	蓑毛康太郎 大塚宜寿 落合祐介
11	オンライン前処理を用いる迅速かつ高感度な化学物質スクリーニング分析法の開発 （令和7～9年度）	本研究では、迅速かつ高感度な水中化学物質の分析法開発を目的とし、自動前処理技術の一つであるオンライン固相抽出を用いるGC-MS測定、in-silicoクリーンアップによるデータ処理、及びAIQSを用いる自動同定定量の3つを組み合わせた新たな分析技術を検討する。	堀井勇一 竹峰秀祐 髙沢麻里 大塚宜寿
12	ICP-MS測定のN_2ガスを利用したコリジョン法の検討 （令和7年度）	近年、分析の精度向上に用いられるヘリウムガスが高騰し、入手が困難になっている。そこで本研究は、ヘリウムより安価で安定的に供給が可能な窒素を用いた測定法を検討する。河川水の測定を想定し、環境基準に対して十分な検出感度を得られる測定法の確立を目指す。	北島卓磨 竹峰秀祐
13	希少種ムサシトミヨからのDNA放出特性に関する検討 （令和7～8年度）	本県及び熊谷市の魚である希少種ムサシトミヨに着目し、その生息調査への本技術の将来的な適用を見据え、本種からのDNA放出特性について明らかにするとともに、フィールド調査への実用可能性について検討を行う。令和7年度は、ムサシトミヨ種特異的プライマーの設計と性能確認を行った。	木持謙 渡邊圭司 田中仁志
14	蛍光を用いた水質事故時の油検出法の構築と実用性評価 （令和7～8年度）	油流出は埼玉県の河川水質事故の半数近くを占め、迅速な事故対応が求められる。本研究では、発生源調査に必要となる油検知と油種判定について、蛍光分析を用いた迅速かつ簡便な手法を構築し、県内河川における実用性を評価する。また、河川への油流入のリアルタイム検知への適用性も評価する。	池田和弘 柿本貴志
15	アナモックス反応を応用した実践的窒素除去方法の検討と課題整理 （令和6～8年度）	アナモックス反応は、エネルギー消費が少ない新しい窒素除去法として注目されている。しかし、国内の下水処理場での実践例は少ない。本研究では下水処理場のメインストリームでのアナモックス処理の実用化を目指し、培養細菌を用いたラボスケール実験を実施する。低窒素濃度下での処理特性を評価するとともに、金属元素の影響や亜硝酸酸化細菌による阻害要因を分析する。	見島伊織

	テーマ名・期間	目 的	担 当 者
16	抗菌剤を適用したフランボイダル黄鉄鉱の酸化抑制手法の開発 （令和7～9年度）	海成堆積物中のフランボイダル黄鉄鉱は、酸素や水にさらされると、硫黄酸化細菌や鉄酸化細菌の働きにより鉄と硫酸とに分解する。硫酸により酸性化された堆積物からは、カドミウム、鉛や砒素など有害な重金属類が溶出することが知られている。本研究では、海成堆積物にアルカリ性材料と抗菌剤を添加し、pH制御と抗菌作用のダブル効果で黄鉄鉱の酸化を未然防止する新規対策技術の開発を検討する。	石山高 濱元栄起 柿本貴志 髙沢麻里 渡邊圭司
17	太陽熱と地中熱による複合システムの有効性の検証 （令和6～8年度）	脱炭素社会への取り組みにおいて、化石エネルギーによる熱エネルギーを再エネ熱に転換することが重要である。とくに再エネ熱として太陽熱や地中熱が有望である。本研究ではこの両者を連結した複合システムを検討し、各エネルギー源を相補的に利用した高効率かつ低コストである再エネの熱供給システムの可能性を検証する。	濱元栄起 石山高 柿本貴志 髙沢麻里 嶋田知英 大和広明
18	震災時生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充による対応に関する研究 （令和4～8年度）	阪神淡路大震災以降、井戸水が災害時の生活用水として活用されるようになった。東日本大震災などの地震においても、断水地域では生活用水不足が被災者の生活の質に悪影響を及ぼし続けており、災害発生時の生活用水確保手段の堅牢化・多重化を進めていく必要がある。本研究では特に井戸の活用に注目し、災害発生時における生活用水確保が容易になるような社会システムの構築を目指す。	柿本貴志 髙沢麻里 濱元栄起 石山高

（注） 概要は、７．１ 自主研究概要を参照。

5.2.2 競争的研究費による研究事業

（23課題）

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
1	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 （令和7～9年度） 研究代表：(国研)国立環境研究所 その他連携先：福岡県保健環境研究所、いであ(株)	「多様化する化学物質リスクへの対応と持続的な環境監視に資するダイオキシン類分析法の開発」 今後の持続的な環境監視に資するため、効率化・省力化を実現するダイオキシン類の測定手法の改良及び開発を行い、複数試験所間比較などにより、分析法の標準化に必要な情報を整理しつつ、同時にダイオキシン類以外の複数の化学物質情報の取得と解析が可能な方法、あるいは同時測定可能な物質について提案する。最終的には、環境省マニュアル等の公定法の改定のための素案を準備することを目標とする。	大塚宜寿 蓑毛康太郎 堀井勇一 竹峰秀祐
2	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 （令和6～8年度） 研究代表：埼玉県環境科学国際センター その他連携先：筑波大学、東京科学大学	「気候変動下で激甚化する都市型水害の低減に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」 都市型豪雨は雨雲の発生から消滅までが短時間で、強い降水が狭い範囲で生じることから、深刻な都市型水災害を引き起こす。一方で、その発生特性からシミュレーションの再現性は依然低く、都市型水害リスクの予測には不確実性が大きい。そのため、大気汚染物質と都市化影響が降水に与える影響を定量化し、さらに日本が目指す脱炭素社会における都市型豪雨の予測を通じて、水災害リスクを低減させるようなシナリオを提案する。	河野なつ美 （代表） 山上晃央

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
3	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 （令和6～10年度） 研究代表：(国研)国立環境研究所 その他連携先：大阪大学、東京大学、いであ(株)、(公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター、東京科学大学、長崎大学、(特非)海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、(国研)理化学研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」 様々な施策・取組みの効果や気候変動の影響等をエンド・ツー・エンドで予測・評価する統合評価モデルと、予測・評価結果をバーチャル空間上で分かりやすく可視化する「見える化」機能を搭載した沿岸環境・生態系デジタルツインを開発する。開発プロセスにおいて、実海域の施策・取組みのケーススタディや市民参画プラットフォームでの活用実践を並行して行い、行政や市民・民間等からのニーズを幅広く収集して開発に反映することで、多様なステークホルダーの理解醸成と合意形成を支援するデジタルツインプラットフォームを構築する。	見島伊織
4	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 （令和7～9年度） 研究代表：(国研)国立環境研究所	「環境動態モデルと実測による規制・未規制PFASの包括的な水道水源水質管理戦略と水質監視手法の構築」 モニタリングと多媒体環境動態モデルの併用により、移動性が高く未規制のPFASを含むPFAS全体の水道水源水質管理戦略を構築することを目的とする。そのために、土壌ミニカラムを用いた実験や多媒体環境動態モデルを用いて、環境中濃度の長期変動を予測する。水質分析では、約40種のPFASおよびTOP assay（全酸化可能前駆体分析）、全有機フッ素（TOF）について業種別排水や環境水の分析を実施し、PFASのプロファイリングを行う。地下水においては、汚染源における実態調査を行い、汚染源から地下水に至るまでのPFAS濃度やプロファイルの変化を提示する。実測と情報収集、環境動態モデルの継続的な連携に基づく、水道水源水質監視の地点選定などの手法を提案する。	髙沢麻里 竹峰秀祐
5	国土交通省 応用研究（下水道） （令和7～8年度） 研究代表：東洋大学 その他連携先：水ing(株)、埼玉県下水道局	「嫌気性アンモニア酸化反応を利用した下水と返流水の統合処理に関する研究」 下水処理における電力消費とN_2O排出の削減が課題であり、曝気動力の大幅な削減が求められている。嫌気性アンモニア酸化法は低炭素型窒素処理として注目されるが、水処理系への適用が課題である。本研究では、水処理系と汚泥処理系の統合処理へ展開し、中濃度アンモニア排水の形成により適用を図る。ラボ試験および実証試験により運転条件を最適化し、統合システム解析を通じて曝気動力とN_2O排出の削減効果を評価する。	見島伊織
6	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（補助金） （令和5～7年度） 研究代表：(国研)国立環境研究所 その他連携先：(国研)理化学研究所、名古屋市立大学、公立鳥取環境大学、北九州市立大学、千葉大学、(国研)産業技術総合研究所	「情報科学の援用による多様な化学物質の包括的・即応的環境計測」 本研究では、質量分析を中心に重金属などの無機元素やイオンなどの各種計測を加えた包括分析を行うことで、より広範囲な化学種の検出を目指し、そのカバー範囲や再現性等の検証は複数の協力機関が参加する共通試料分析により実施する。また、人工知能や計算科学的手法を投入することにより、包括的分析データから原因物質に係る有意成分を抽出し、その構造や物性を予測する一連の解析法を開発する。収集した包括データのレトロスペクティブ解析やオンデマンド解析による物質探索を可能にし、最終的には、環境異常事象の要因（化学物質・化学種）を特定・推定するための即応的・実践的かつ先駆的な手順を提案する。	大塚宜寿 竹峰秀祐

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
7	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和5～7年度） 研究代表：埼玉県環境科学国際センター その他連携先：(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「観測タワーとドローンの統合観測による多成分BVOC放出フラックスの面的不確実性評価」 生物起源揮発性有機化合物(BVOC)は、地球規模の炭素循環や気候変動、地域規模の光化学大気汚染に大きな影響を与えている。しかし、BVOCの物質収支は未だ十分に解明されておらず、中でも放出量(放出フラックス)算定の不確実性を低減することが大きな課題となっている。本研究では、森林上におけるタワー観測とドローンを活用した水平移動観測とを組み合わせ、BVOC放出フラックスの空間代表性(不確実性)の解明を目的とする。	市川有二郎 （代表） 米持真一
8	(独)日本学術振興会 国際共同研究加速基金（海外連携研究） （令和6～8年度） 研究代表：早稲田大学 その他連携先：帝京科学大学、カンボジア・アプサラ機構	「アンコール遺跡保全と持続可能な観光のための大気環境管理戦略」 アンコール遺跡群はカンボジア北西部に位置し、観光客が最も多く訪れる重要な観光資源である。1992年にユネスコ世界文化遺産に登録され、各国が修復・保存に協力している。しかし、観光客増加に伴う排ガスや粉塵、バイオマス燃焼、商業用発電による大気汚染が懸念されている。遺跡群とシェムリアップ周辺の大気汚染実態は不明であり、本研究ではガスやエアロゾル、降雨を含む総合的な調査を行い、観測体制の整備や人材育成を通じ持続可能な社会の実現を目指す。	村田浩太郎
9	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和6～8年度） 研究代表：埼玉県環境科学国際センター	「田植え時期の違いは水田食物網を改変するか？ミクロとマクロを結ぶ包括的生態系解析」 本研究では、田植え時期の違いが、水田における水生生物からサギ類までを結ぶ水田食物網に与える影響を解明することを目的とする。炭素・窒素安定同位体比分析やDNAメタバーコーディングを用いることで、水中食物網構造やサギ類の食性を調査し、田植え時期との関係を明らかにする。また、衛生画像で推定した湛水開始時期を指標としてサギ類の採餌適地を可視化し、水田食物網の空間的な分布とその季節変化を推定する。	安野翔 （代表） 大和広明
10	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和7～9年度） 研究代表：埼玉県環境科学国際センター その他連携先：(国研)国立環境研究所、富山県立大学、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「新規POPs候補物質メチルシロキサンの環境中濃度及び組成の歴史的変遷と将来予測」 ストックホルム条約の残留性有機汚染物質（POPs）への追加が検討されているメチルシロキサンについて、日本の主な沿岸域を網羅し、1980年代から採取・保存されてきた国内の生物アーカイブ試料（付着性二枚貝）の測定により時空間分布及び汚染の歴史的トレンドを解明する。さらに、地理的分解能を有する多媒体環境動態モデル（G-CIEMS）を用いて、排出推定及び排出シナリオに応じた過去、現在、将来の環境濃度を予測し、実測値と比較・検討する。	堀井勇一 （代表）
11	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和5～7年度） 研究代表：早稲田大学	「バイオフェントン法を組込んだ高性能膜分離活性汚泥法の研究開発」 本研究は、難生分解物質等の酸化機能を強化し、高品質な処理水を少ない資源・エネルギー消費で得ることができる高性能排水処理・水再利用技術の開発を行う。酸化機能の強化はバイオフェントン法に着目し、微生物細胞内で生成の過酸化水素と鉄化合物が反応して生成されるヒドロキシラジカル（この反応をフェントン反応という）の酸化力を活用する。また、鉄触媒にマグネタイトを用いることによる、磁力を活用した処理水と汚泥の分離技術についても開発する。	木持謙

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
12	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和5～7年度） 研究代表：東洋大学	「環境DNA分析を用いた水生生物情報提供による市民の水辺価値評価向上手法の提案」 本研究では、川越市を対象地域とし、環境DNA/RNA分析等を活用して調査地域の河川における代表的な水生生物の質（種類）と量（相対的な分布密度）の推定精度を高める手法を開発する。また、市民への調査結果の提供が、地域の水辺の価値評価に与える影響について、アンケート調査によって評価する。これらにより、水辺の価値を高められる水生生物情報提供手法を提案する。	木持謙
13	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和4～7年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先：大阪工業大学	「蛍光分析で検出されるトリプトファン様物質ピークの由来はタンパク質かタンニンか」 三次元励起蛍光スペクトル法による水質評価では、トリプトファン様ピークがタンパク質の量の指標としてよく利用される。一方、植物由来の有機物であるタンニンが多く共存する場合、ピーク位置がトリプトファン様ピークと重なるため、指標性に疑義が生じる。本研究は、河川水、湖沼水、下水において、トリプトファン様ピークが真にタンパク質の指標となるか実態を解明する。またトリプトファン様ピークがタンパク質の指標となる条件（水の種類、流域特性、降雨状況など）について整理する。	池田和弘 （代表）
14	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和6～8年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先：東洋大学	「低炭素化を志向した多段的アナモックス活用による排水中の窒素除去の高度化」 本研究では、アナモックス処理を水処理系と汚泥処理系の排水の処理に多段的に活用することを試みる。両処理において高い窒素除去性能を有するアナモックス細菌を使用することとし、実験的に窒素除去活性と生物叢が維持される条件について明らかにする。また、多反応との競合によるアナモックス反応の失活の抑制についても検証する。最終的に本研究で提案する多段的アナモックス活用技術による排水処理の低炭素化効果を申請者が考案した手法を用いて定量的に評価する。	見島伊織 （代表）
15	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和7～9年度） 研究代表：群馬大学	「微生物燃料電池のリン保持能の解明によるリン除去型排水処理技術の構築」 本研究は、発電しながら排水処理が可能な微生物燃料電池が排水中のリンや鉄等の化学形態変化に与える影響を、放射光分析や微生物菌相解析により解明し、その効果的な制御方法の確立を目指すものである。得られた知見をもとに装置作製および運転条件の最適化を行い、微生物燃料電池単体で有機物・窒素・リンの同時除去が可能な創エネ型排水処理技術の開発を目指す。	見島伊織
16	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和7～9年度） 研究代表：東洋大学	「微量金属制御によるアナモックスプロセスの活性化及びN_2O発生の抑制」 下水や産業排水中の窒素処理として、曝気動力を半減できるアナモックス細菌の活用が期待されている。一方で、活性維持や強力な温室効果ガスであるN_2Oの発生抑制が課題であり、制御手法の確立が求められる。本研究では、薬剤添加により排水中の微量金属濃度を調整し、微生物機能を制御する手法を提案する。モデル排水の連続試験により金属濃度を変化させ、窒素処理性能とN_2O発生量の関係を明らかにし、適正な微量金属濃度範囲を解明する。	見島伊織

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
17	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) （令和5～8年度） 研究代表：東京農工大学	「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」 プラスチックに含有される添加剤は、適正に回収され処理をされても、埋立地の浸出水から環境中に広がったり、リサイクルによって再度製品に含有されたりと非意図的に再分配されている。本研究では浸出水やリサイクルされたペレットに含有される内分泌かく乱化学物質（ビスフェノールAやその関連物質）に着目し、環境中での実態把握及び環境動態を明らかにすることを目指す。	髙沢麻里
18	(国研)科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム COI-NEXT 共創分野本格型 （令和6～11年度） 研究代表：東京大学 その他連携先：東北大学、(国研)農業・食品産業技術総合機構、ほか25機関	「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点（ClimCORE)」 今後の社会設計の前提となる基盤データとして、最新の気象予測モデル技術と衛星・レーダー等の最新の観測技術を融合した日本域気象再解析を実施し、過去から現在に至る日本域の大気状態を均質・高品質で高い時空間分解能で再現する4次元気象データを整備する。また、この日本域気象再解析を含む地域気象データや最新の気象情報を、社会・産業の多様な分野において戦略的に利活用可能とする体制の構築を目指す。	河野なつ美
19	(公財)リバーフロント研究所 河川生態学術研究会 （令和7～10年度） 研究代表：東北大学 その他連携先：福島大学、(公財)宮城県伊豆沼･内沼環境保全財団	「伊豆沼・北上川下流域の生態系ネットワークとその生態系機能」 本研究では、北上川下流域に位置する伊豆沼・内沼集水域を中心に、水鳥、水生植物群落、氾濫原依存魚の増減、移動に関わる環境条件や生態系全体に与える影響の解明を目指す。分担者の安野は、伊豆沼・内沼でしばしば過剰繁茂するハスおよびヒシ類群落の面積規模を衛星画像を用いて定量化し、その経年変化を示すための解析を行う。最終的に水位変動や氾濫と群落の拡大縮小との関係を解明する。	安野翔
20	(公財) 自然保護助成基金 プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 （令和5～7年度） 研究代表： 埼玉県環境科学国際センター その他連携先：東京大学、筑波大学	「奄美大島に生息する洞窟棲の絶滅危惧コウモリ類保全に向けた基礎調査」 本研究では、奄美大島の人工洞を含む洞穴を踏査し、個体数調査・各洞窟の環境評価を行う。獲得した知見から、繁殖地等重要な生息地として機能する洞穴を特定し、保全策に関する提言を行うことを最終的な目的とする。	牧貴大 （代表）
21	(公財)河川財団 河川基金助成事業 （令和7～8年度） 研究代表： 埼玉県環境科学国際センター その他連携先：東北工業大学	「カードゲームを用いた効果的河川体験学習の支援」 市民は、幼少期に河川に親しんだ体験の量と質に応じて水辺を愛で、河川環境の持続的保全行動や行政施策に理解を示す。河川への汚濁負荷の7割は生活排水由来であり、水質改善のためには日常生活において広く市民からの協力を得る必要がある。現在、小学校では総合的な学習の時間が設けられており、河川は探求学習の題材として有望である。生き物調査の野外体験型学習に加え、野外学習が困難な場合も想定し、教室内で手軽に利用できるカードゲームにより河川水質と生き物の関係、河川に優しい行動を楽しく学ぶ体験型学習法の普及を目指す。	田中仁志 （代表） 木持謙
22	(公財)河川財団 河川基金助成事業 （令和7年度） 研究代表： 埼玉県環境科学国際センター その他連携先：中外テクノス(株)	「希少魚ムサシトミヨの住む川づくりに向けた生息環境非破壊的調査法の基礎的検討」 本研究では、本県及び熊谷市の魚である希少種ムサシトミヨに着目し、その生息調査への本技術の将来的な適用を見据え、本種からのDNA放出特性について明らかにするとともに、フィールド調査への実用可能性について検討を行う。	木持謙 （代表） 渡邊圭司 田中仁志

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
23	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構委託事業 （令和6～10年度） 研究代表：(国研)産業技術総合研究所 その他連携先：(地独)北海道立総合研究機構、静岡県環境衛生科学研究所、岐阜大学、金沢大学、秋田大学	「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」 再エネ熱大量導入および地域活性化の実現に向けて、地方における再エネ熱の面的利用および大量導入を実現するための導入支援技術の一環として事業化支援技術開発（再エネ熱面的利用の事業モデル構築とガイドライン作成）に取り組む。本研究開発では再エネ熱面的利用の事業化支援技術開発の前段として地中熱利用システムの導入支援技術の開発も実施する。	濱元栄起 石山高 柿本貴志 髙沢麻里 嶋田知英 大和広明

（注） 概要は、７．２ 競争的研究費による研究の概要を参照。

5.2.3 行政令達

（35課題）

	事　業　名	目　　的	担　当	関係課
1	地球温暖化対策実行計画推進事業	県内における温室効果ガスの排出量、温度実態等を調査し、温暖化対策の進捗状況の把握や、温暖化の実態について分析を行う。また、気候変動適応策を推進するため、県の気候変動適応センターを運営し、県内の気候変動とその影響に関する情報の収集やWEBサイト、サイエンスカフェ、出前講座を通じた発信を行う。	温暖化対策担当	温暖化対策課
2	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（地球環境モニタリング調査）	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担当 大気環境担当	大気環境課
3	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（有害大気汚染物質モニタリング調査）	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	大気環境課
4	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（炭化水素類組成調査）	光化学スモッグの原因物質の一つである揮発性有機化合物について、県内の大気環境中における実態を把握する。	大気環境担当	大気環境課
5	大気汚染常時監視事業（PM2.5成分分析）	埼玉県内の$PM_{2.5}$による汚染実態を把握するとともに、その成分も分析することで、$PM_{2.5}$の濃度低減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課
6	NO_x・PM総量削減調査事業	関東地方大気環境対策推進連絡会微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議に参加し、微小粒子状物質及び光化学オキシダントの調査及びデータの解析を行う。	大気環境担当	大気環境課
7	光化学オキシダント・PM2.5対策事業（PM2.5発生源調査）	ばい煙発生施設から排出される$PM_{2.5}$の実態を明らかにすることで、$PM_{2.5}$の発生源対策に役立てるとともに、排出インベントリーの整備にも寄与する。	大気環境担当	大気環境課
8	光化学オキシダント・PM2.5対策事業（VOC対策サポート事業）	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課

	事　業　名	目　　的	担　当	関係課
9	工場・事業場大気規制事業	工場、事業場からの大気汚染を防止するため、固定発生源におけるVOC等を測定する。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課
10	大気環境石綿対策事業	県民の石綿による健康被害の防止及び不安の解消を図るため、震災発生時における速やかな大気への石綿飛散状況のモニタリング体制を整備する。	大気環境担当 資源循環・廃棄物担当	大気環境課
11	騒音･振動･悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌･地下水･地盤担当	水環境課
12	化学物質総合対策推進事業（化学物質環境実態調査）	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 化学物質・環境放射能担当 水環境担当	大気環境課（環境省委託）
13	希少野生生物保護事業（調査等）	「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ、アカハライモリ、オニバスについて、生息・生育地のモニタリング調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ等の植物について、個体の維持・増殖を行う。	自然環境担当	みどり自然課
14	生物多様性保全総合対策事業（調査等）	生物多様性に影響を及ぼす特定外来生物を中心に県内での生息・生育状況等を把握する。	自然環境担当	みどり自然課
15	産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課
16	廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無を評価する。また、不法投棄された廃棄物や不適正に管理された土砂等の検査や撤去等に必要な調査を実施し、生活環境への影響評価や支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課
17	廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設（最終処分場及び焼却施設）の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課
18	資源リサイクル拠点環境調査研究事業（埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖）	埼玉県環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査、埋立地の内部温度、及び埋立地ガスの検査を実施し、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課
19	サーキュラーエコノミー推進事業	県内のサーキュラーエコノミーを推進するために、サーキュラーエコノミー推進分科会が行う取組の支援、リチウムイオン電池の回収実証試験における放電試験、及び民間事業者がステークホルダーと連携して取り組むサーキュラーエコノミー型ビジネスに対する助言等を行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課

	事　業　名	目　　的	担　当	関係課
20	工場・事業場大気規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排出ガスやばいじん等に対する排出規制の徹底を図る。	化学物質・環境放射能担当	大気環境課
21	工場・事業場水質規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質・環境放射能担当	水環境課
22	水質監視事業（ダイオキシン類汚染対策調査）	環境基準を超過する濃度が観測されている河川について、汚染の動向を監視する視点から調査、解析・考察を行う。	化学物質・環境放射能担当	水環境課
23	資源リサイクル拠点環境調査研究事業（ダイオキシン類調査（大気））	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター及び資源循環工場の周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質・環境放射能担当	資源循環推進課
24	化学物質総合対策推進事業（工業団地等周辺環境調査）	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質の大気中濃度を把握するため、事業所周辺及び県内一般環境の大気濃度を調査する。	化学物質・環境放射能担当 大気環境担当	大気環境課
25	環境放射線調査事業	一般環境における放射性物質調査を実施し、県民の安心・安全を確保する。	化学物質・環境放射能担当	大気環境課 （原子力規制庁委託） 水環境課
26	水質監視事業（公共用水域）	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、人の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当	水環境課
27	工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の尊守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止に役立てる。	水環境担当	水環境課 各環境管理事務所
28	水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当 土壌･地下水･地盤担当	水環境課
29	水質監視事業（地下水常時監視）	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌･地下水･地盤担当	水環境課
30	土壌・地盤環境対策事業	汚染が懸念される土壌･地下水等の調査･分析･解析等により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。また、地下水汚染の拡散方向を把握するため、表層地形を解析して地下水流向を推定する。	土壌･地下水･地盤担当	水環境課 各環境管理事務所
31	地理環境情報システム整備事業	全庁GIS基盤を活用した県環境施策推進のための基礎資料の充実を図るとともに、インターネットを通じた情報公開及びDX推進による業務効率向上を支援することにより、県民の環境保全活動及び効率的な環境行政の推進を側面から支援する。	土壌･地下水･地盤担当	環境政策課

	事　業　名	目　　的	担　当	関係課
32	希少野生生物保護事業（委託）	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に基づいた希少野生生物保護施策を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
33	鳥獣保護管理対策事業（委託）	湿地の保全や鳥獣保護区の設定等に活用される全国的な基礎データを作成するため、県内においてガンカモ類の生息調査を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
34	野生生物保護事業（委託）	野生生物（カワウ、オオタカなど）の生息数や生息地を適正なものとするため、生息状況等を調査する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
35	生物多様性保全総合対策事業（委託）	多種多様な動植物が生息・生育できる自然環境を保全・創出し、多様な生態系を維持するため、希少野生生物の保護や特定外来生物の防除を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課

（注）　概要は、７．３ 行政令達概要を参照。

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関等から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定（平成12年6月）、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書（平成14年3月）及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定（平成20年5月）を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

令和7年度は、国内外55課題を実施した。

5.3.1 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

（51課題）

	連携先	研究課題名等	担当者
1	東京大学	「埼玉県の東秩父測定局における二酸化炭素の濃度測定とデータ解析」 本研究は県大気環境課が管理する東秩父測定局（堂平山観測所）に大気中二酸化炭素濃度の測定機器を設置し、関東域における二酸化炭素の挙動解明を目指す。	八戸昭一
2	(国研)国立環境研究所、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、ほか30機関	「広範なPFAS管理のための廃棄物・環境分析に関する研究」（Ⅱ型実施共同研究） 本研究は、地方環境研究機関とともにPFAS分析法に関する相互検定研究を実施し、その技術普及を進めるとともに、情報共有のためのネットワーク構築を試みる。	茂木守 髙沢麻里
3	早稲田大学	「大気微小粒子の実態および磁気的特性の解明」 「氷晶核の実態解明」 大気中の磁性粒子の実態はまだほとんど分かっていない。当センターで開発した粒子状物質の「磁気分離法」を応用し、大気粒子の磁気分離と磁気的特性及びその化学組成を解明する。また、雲や雨の形成において不可欠な粒子である氷晶核の計測及び実態を解明する。	米持真一 村田浩太郎
4	NTTアドバンステクノロジ(株)	「ドローンを活用した高高度大気計測の検討」 高高度まで安定して飛ばすことのできるドローン技術を用い、人間の生活圏より更に高い高度における大気・ガスの状況を調査することで、環境問題の究明及び解決に繋げることを目指す。	米持真一 市川有二郎 村田浩太郎
5	東洋大学	「大気中粒子状物質の磁性に関する研究」 磁性粒子はアルツハイマー病の原因物質の一つとして考えられているが、磁性粒子に関する発生源、空間的濃度分布、化学成分との関係性等に関する知見が不足している。本研究では大気試料を採取し、磁性粒子の割合、金属成分等、粒径分布等の物理化学特性の解明を試みる。	米持真一
6	(国研)国立環境研究所、(国研)理化学研究所、名古屋市立大学、公立鳥取環境大学、北九州市立大学、千葉大学、(国研)産業技術総合研究所	「情報科学の援用による多様な化学物質の包括的・即応的環境計測」（再掲）	大塚宜寿 竹峰秀祐

	連携先	研究課題名等	担当者
7	日本ウォーターズ(株)	「窒素キャリアーガスおよびAPGCイオン化法を用いたGC/MSによるダイオキシン類の分析法の検討」 窒素ガスキャリアーでも感度が減少しないAPGCイオン化法を用いたGC/MSによるダイオキシン類の分析法を検討し、異性体の分離度・感度を確認するとともに実用性を検証する。	大塚宜寿 蓑毛康太郎 竹峰秀祐
8	(国研)国立環境研究所、福岡県保健環境研究所、いであ(株)	「多様化する化学物質リスクへの対応と持続的な環境監視に資するダイオキシン類分析法の開発」 （再掲）	大塚宜寿 蓑毛康太郎 堀井勇一 竹峰秀祐
9	(株)渡辺製作所	「IoT暑さ指数計の製品化及び社会実装化に関する研究」 当センターが開発したIoT暑さ指数計の熱中症対策への活用と社会実装化を促進するため、開発したIoT暑さ指数計の観測精度・信頼性の向上を目指す。	大和広明
10	立正大学	「埼玉県内の都市部における日本型LCZの検証」 埼玉県が観測している百葉箱の気温データを検証データとして、数値シミュレーションの結果を元に提唱する予定である日本型LCZ(Local Climate Zone)の検証を行うこと。	大和広明
11	(株)渡辺製作所 (株)建設技術研究所	「熱中症等の気象災害を防ぐための意思決定を支援する情報共有ツールの開発及び社会実装に関する研究」 暑さ指数などの気象観測データに基づいて熱中症等の気象災害を防ぐための意思決定を支援する情報共有ツールを開発すること。	大和広明
12	筑波大学、東京科学大学	「気候変動下で激甚化する都市型水害の低減に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」（再掲）	河野なつ美 山上晃央
13	東京大学、東北大学、(国研) 農業・食品産業技術総合機構、ほか25機関	「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点（ClimCORE)」（再掲）	河野なつ美
14	気象庁気象研究所	「中・高緯度の大気海洋海氷相互作用現象と地球科学物質循環の理解と予測可能性の評価」 中緯度から北極域の大気海洋海氷相互作用現象と物理・低次生態系場の変動の理解と予測可能性について、特に北極低気圧事例を対象に調査する。	山上晃央
15	(国研)国立環境研究所、名古屋市環境科学調査センター、ほか37機関	「光化学オキシダント等の有効な対策に向けた新たなデータ解析と効果的な大気環境モニタリングの探索」（Ⅱ型実施共同研究） 本研究では、これまでに取り組んできたモニタリングデータの解析を発展させ、光化学オキシダント（Ox）やPM2.5をはじめとする大気汚染物質濃度の経年変化や高濃度に対する発生源の影響を明らかにする。また、これまで予備的に実施した統計的解析に本格的に取り組み、要因解析や濃度分布の導出を行う。さらに、大気質シミュレーションの実行環境を整備した上で、解析に役立てる。これらを通して、Ox 等の有効な対策に向けた、より効果的なモニタリングを実現するための新たな知見を得る。	長谷川就一 河野なつ美
16	(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「観測タワーとドローンの統合観測による多成分BVOC放出フラックスの面的不確実性評価」（再掲）	市川有二郎 米持真一

	連携先	研究課題名等	担当者
17	東洋大学	「多成分BVOC放出フラックスと鉛直プロファイルに係る観測研究」 生物起源揮発性有機化合物（BVOC）は地球規模の炭素循環や気候変動、地域規模の光化学大気汚染に大きな影響を与えており、主要排出源である森林生態系のBVOC放出量に係る研究は重要である。東京農工大FM多摩丘陵の演習林（主要樹種：コナラ、スギ）に設置された大気観測鉄塔を活用し、季節別BVOC放出フラックスや鉛直プロファイルに係る観測を行う。	市川有二郎
18	東洋大学	「大気環境中に存在する氷晶核の実態解明」 雲を構成する氷晶の形成には氷晶核というエアロゾル粒子が必要不可欠であるが、それらの実大気中での存在量や活性度、粒子種ごとの雲や降雨形成への寄与度については観測知見が不足している。本研究では大気中浮遊粒子や湿性沈着物等の大気環境試料に含まれる氷晶核の計測を実施し、実大気中における氷晶核の実態解明を試みる。これを補足する情報として、試料のイオン成分等の化学成分分析に加え、室内実験として人工的に作製した標準粒子の氷晶核としての活性評価試験も実施する。	村田浩太郎
19	東洋大学	「外来生物の分布拡大予測モデルの構築に関する研究」 埼玉県にて問題となっているアライグマ等の外来生物の捕獲データを用いてその個体群動態や生息環境条件を統計モデリングによって評価・予測し、効果的な防除対策への寄与を目指す。	米倉哲志
20	東北大学、福島大学、（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	「伊豆沼・北上川下流域の生態系ネットワークとその生態系機能」（再掲）	安野翔
21	日本工営株式会社	「アスベストAI画像解析ソフトの開発」 国内外における災害普及でのがれき処理時の健康被害防止のため、建材中の石綿簡易判別法における石綿繊維みなし判断を行えるAI解析ソフトの開発を目指す。	川嵜幹生
22	(国研)国立環境研究所、鳥取県衛生環境研究所、ほか13機関	「廃棄物最終処分場の廃止判断と適正な跡地利用に資する多面的評価手法の適用に関する検討」（Ⅱ型実施共同研究） 地方環境研究所は廃棄物最終処分場の廃止に係る技術的な助言が求められる立場にあり、環境安全性確保という監督者責任を持つ自治体、利益に関わる施設管理者の相互理解を図るうえで、経験に裏付けされた科学的・合理的根拠を示す必要がある。そこで、各地方環境研究所が有する知見の共有と横断的な支援を可能にするネットワーク形成を図る。また、最終処分場の現場特異性と跡地の利用を考慮した、科学的かつ総合的な廃止の評価手法を構築する。	長谷隆仁 長森正尚 磯部友護
23	(国研)国立環境研究所、富山県立大学、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「新規POPs候補物質メチルシロキサンの環境中濃度及び組成の歴史的変異と将来予測」（再掲）	堀井勇一
24	(国研)国立環境研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所、ほか28機関	「国内水環境における化学物質による生態リスクの特徴把握」（Ⅱ型実施共同研究） 全国規模で微量有害化学物質の水生生物への生態リスク評価を進めるため、有機・無機問わず網羅的に分析する。得られた結果を化学物質毎の予測無影響濃度と照らし合わせ、地点ごとの化学物質リスクの特徴を把握する。	竹峰秀祐 北島卓磨

	連携先	研究課題名等	担当者
25	(公財)埼玉県下水道公社	「蛍光強度を利用した下水道不明水の浸水箇所の推定調査～県内流域下水道への応用」 これまでの研究で、荒川左岸北部流域をテストサイトに蛍光強度、BOD及びCODが下水道の不明水のマーカーとして機能することを確認した。本研究では、他流域も含めてこれらの項目がマーカーとして機能するか確認するため、公社が管理する5流域の接続点において調査を行った。	竹峰秀祐 池田和弘
26	内藤環境管理(株)	「中鎖塩素化パラフィンの標準品の組成決定と分析法の検討」 LC/TOFMSを用いて質量スペクトル干渉を低減した分析法の確立及びシグナル比から定量用標準の組成決定を行う。さらに、LC/四重極型MSを用いた分析法についても検討する。	竹峰秀祐
27	(国研)国立環境研究所、名古屋市環境科学調査センター、ほか10機関	「良好な水環境の創出に向けた生物応答の活用に関する研究」（Ⅱ型実施共同研究） 水環境には多様な汚染物質が存在し、生物は常に複合的な曝露を受けている。Effect-based monitoringの導入により、生物影響を重視した評価が求められている。本研究では短期慢性毒性試験やOECD202急性毒性試験を比較し、公共用水域での生物影響データを蓄積する。平時データは水質事故時の対応にも有用であり、生物影響が確認された場合にはTIEやEDAを活用して原因物質の推定と水環境管理の高度化に貢献する。	田中仁志
28	東北工業大学	「マイクロプラスチック対策に向けた現状把握と環境教育手法の開発」 マイクロプラスチックの環境学習方法の開発に向けたマイクロプラスチック現状把握を実施する。得られた結果は、マイクロプラスチック汚染実態情報として、環境学習手法の開発に活用する。	田中仁志
29	東北工業大学	「カードゲームを用いた効果的河川体験学習の支援」（再掲）	田中仁志 木持謙
30	東洋大学	「環境DNA分析を用いた水生生物情報提供による市民の水辺価値評価向上手法の提案」（再掲）	木持謙
31	早稲田大学	「バイオフェントン法を組込んだ高性能膜分離活性汚泥法の研究開発」（再掲）	木持謙
32	東京大学、筑波大学	「奄美大島に生息する洞窟棲の絶滅危惧コウモリ類保全に向けた基礎調査」（再掲）	牧貴大
33	(国研)国立環境研究所、神奈川県環境科学センター、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所、ほか17機関	「環境DNAを用いた淡水生物群集の網羅的調査手法開発」（Ⅱ型実施共同研究） 淡水流水環境の生物群集を対象に、脊椎・無脊椎動物を高精度に検出可能な網羅的環境DNA分析手法を開発する。複数プライマーを比較して最適条件を決定し、捕獲調査結果との比較により精度を検証する。併せてDNAデータベース整備と技術講習会も実施する。	木持謙
34	中外テクノス(株)	「希少魚ムサシトミヨの住む川づくりに向けた生息環境非破壊的調査法の基礎的検討」（再掲）	木持謙
35	大阪工業大学	「蛍光分析で検出されるトリプトファン様物質ピークの由来はタンパク質かタンニンか」（再掲）	池田和弘
36	県立いずみ高等学校	「県立高校での暑さ指数等の観測及び暑熱適応策の検討・検証」 県立高校と連携し、学校環境における熱中症リスクの見える化と適応策の創出を、高校生と共同で進める。学校現場に根ざした実践的な適応策のモデルを提示するとともに、高校生自身がデータを用いて気候変動適応を考える学習機会を創出する。	大和広明

	連携先	研究課題名等	担当者
37	東洋大学	「アナモックス反応を応用した実践的窒素除去方法の検討と課題整理」 アナモックス反応は、エネルギー消費が少ない新しい窒素除去法として注目されている。しかし、国内の下水処理場での実践例は少ない。本研究では下水処理場のメインストリームでのアナモックス処理の実用化を目指し、培養細菌を用いたラボスケール実験を実施する。低窒素濃度下での処理特性を評価するとともに、金属元素の影響や亜硝酸酸化細菌による阻害要因を分析する。	見島伊織
38	東洋大学	「低炭素化を志向した多段的アナモックス活用による排水中の窒素除去の高度化」(再掲)	見島伊織
39	(国研)国立環境研究所、大阪大学、東京大学、いであ(株)、(公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター、東京科学大学、長崎大学、(特非)海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、(国研)理化学研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」(再掲)	見島伊織
40	東洋大学、水ing(株)、埼玉県下水道局	「嫌気性アンモニア酸化反応を利用した下水と返流水の統合処理に関する研究」(再掲)	見島伊織
41	群馬大学	「微生物燃料電池のリン保持能の解明によるリン除去型排水処理技術の構築」(再掲)	見島伊織
42	東洋大学	「微量金属制御によるアナモックスプロセスの活性化及びN_2O発生の抑制」(再掲)	見島伊織
43	太平洋セメント(株)	「黄鉄鉱含有堆積物を対象とした土壌汚染対策技術の開発に関する研究」 本研究では、黄鉄鉱含有堆積物が引き起こす土壌の酸性化現象を抑制するための対策技術を開発する。本法は覆土処理や遮水シート処理のような大掛かりな土木工事を必要としないため、対策技術の低コスト化が実現でき、民間企業と提携することで開発技術の社会実装化を目指す。	石山高
44	(国研)産業技術総合研究所、秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。	濱元栄起 八戸昭一
45	(国研)産業技術総合研究所、(地独)北海道立総合研究機構、静岡県環境衛生科学研究所、岐阜大学、金沢大学、秋田大学	「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」(再掲)	濱元栄起 石山高 柿本貴志 髙沢麻里 嶋田知英 大和広明

	連携先	研究課題名等	担当者
46	大起理化工業(株)	「円筒電熱型熱伝導測定装置の開発～実用化に向けた検討～」 地中熱利用システムを適切な規模で設置する場合には、地盤の熱の伝わりやすさである「有効熱伝導率」を測定することが重要である。本共同研究では従来に比べて簡易にそして迅速に測定できる装置について検討する。	濱元栄起
47	大阪公立大学	「生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充手法に関する研究」 災害に伴う断水被害が近年頻繁に起こっており、水道施設の耐震性強化ばかりでなく、地域の水資源を活用した水確保手段の多重化が必要である。本研究では、断水時に井戸から生活用水を得るため、民間井戸所有者の登録制度の課題を整理すること等を通じて、断水時の生活用水が確保しやすい地域を形成するための知見を得ることを目指す。	柿本貴志
48	東京農工大学	「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」（再掲）	髙沢麻里
49	(国研)国立環境研究所	「環境動態モデルと実測による規制・未規制PFASの包括的な水道水源水質管理戦略と水質監視手法の構築」（再掲）	髙沢麻里 竹峰秀祐
50	国立環境研究所、他の地域気候変動適応センター17機関	「気候変動適応に関する地域気候変動適応センター等と国立環境研究所との共同研究」 暑熱環境に関する気象学的観測の実施、熱中症関連データの収集、及び熱中症関連データの分析を行い、年数回の意見交換会で国環研と地域気候変動適応センター間で議論を行う。	大和広明
51	(株)アイスティサイエンス	「自動前処理装置SPL-W100の変改によるペルフルオロアルキル化合物（PFASs）分析法開発と実試料への適用」 現行機である自動前処理装置SPL-W100の内部構造や使用部品を検討することでPFASs分析に適用可能な装置を開発し、環境試料中PFASの分析を可能とする。	髙沢麻里 茂木守 竹峰秀祐

（注）（再掲）の課題は、５．２．２ 競争的研究費による研究事業及び７．２ 競争的研究費による研究の概要を参照。

５.３.２ 国際共同研究

（4課題）

	事業名・期間・連携先	研究課題名等	担　当　者
1	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク （令和6～7年度） 研究代表：マレーシア国民大学 その他連携先：筑波大学 相手国連携先：ベトナム・ハノイ鉱山地質大学、インドネシア国立研究革新庁、ベトナム・ハノイ科学技術大学、ベトナム・ハイフォン市環境モニタリングセンター、ベトナム気象・水文・気候変動研究所、インドネシア気象気候地球物理庁	「東南アジアのメガシティにおける都市温暖化影響の評価：土地利用と気候変動、熱波の統合的研究」 東南アジアの大都市では、気候変動とヒートアイランド（UHI）の2つの温暖化に直面している。UHIを緩和し、持続的な都市開発を推進する政策に反して、UHIを直接規制する法律がなく、またグリーンインフラの統合や国民の意識が不十分であることが課題だと指摘されている。そのため、本研究課題ではマレーシア・クアラルンプールを対象として、リモートセンシング、空間解析、気候モデリングを統合させてUHIと土地利用・土地被覆、地域気候帯との関連を分析し、UHI低減のための科学・政策・行動間のコミュニケーションの枠組みを確立させる。	河野なつ美

	事業名・期間・連携先	研究課題名等	担　当　者
2	EANETにおけるVOCsに関連する能力強化に向けた事業 （令和5～8年度） 研究代表：環境省 その他連携先:(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 相手国連携先：フィリピン、モンゴル、ベトナム、カンボジア	「東アジアにおける揮発性有機化合物（VOCs）のモニタリングとキャパシティービルディング」 東アジア各国ではVOCsの発生源構造が異なることから、VOCsの各国間比較による汚染実態の差異とその要因の解明を目指す。	市川有二郎 佐坂公規 米持真一 河野なつ美
3	(独)日本学術振興会 国際共同研究加速基金（海外連携研究） （令和6～8年度） 研究代表：早稲田大学 その他連携先：帝京科学大学 相手国連携先:カンボジア・アプサラ機構	「アンコール遺跡保全と持続可能な観光のための大気環境管理戦略」（再掲）	村田浩太郎
4	マタラム大学国際連携研究費 （令和7年度～令和９年度） 相手国連携先：インドネシア・マタラム大学	「海藻バイオ炭と鶏糞が畑田トマト栽培における無機肥料の削減と土壌の健康増進に及ぼす影響」 インドネシアの現地大学が実施している本研究に協力し、現地の廃棄物である海藻によるバイオ炭の製造、鶏糞との組み合わせによる化学肥料使用量の低減、カーボンニュートラルの促進と土水環境の改善及びトマトの増収に関する効果を解明し、環境保全型農業システムの確立を目指す。	王効挙 米持真一

（注）（再掲）の課題は、５．２．２ 競争的研究費による研究事業及び７．２ 競争的研究費による研究の概要 を参照。

5.3.3 大学・大学院等からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院等から派遣された学生に研究指導を行った。なお、大学からの依頼による実習生の受け入れはなかった。

大学等との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績　（受入29名）

所　　属		摘　　要
東洋大学理工学部	20名	井坂和一　教授
東洋大学理工学部	８名	反町篤行　教授
埼玉大学大学院理工学研究科	1名	見島伊織　連携准教授

5.3.4 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
速水洋	早稲田大学理工学術院国際理工学センター　教授
秋田祐介	埼玉工業大学工学部生命環境化学科　准教授
遠藤崇浩	大阪公立大学大学院現代システム科学研究科　教授
星野弘志	認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉　代表理事
今泉圭隆	国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康領域　主幹研究員
酒井辰夫	一般社団法人埼玉県環境検査研究協会　常務理事
時枝隆之	気象大学校　教授
角田裕志	長野大学共創情報科学部　准教授

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿（続き）

氏 名	所 属 ・ 役 職
高根雄也	国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター　主任研究員
パラジュリ・ドゥルガ	国立研究開発法人産業技術総合研究所材料基盤研究部門資源循環吸着研究グループ　主任研究員

5.3.5 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
淺枝隆	埼玉大学大学院理工学研究科　名誉教授
金子弥生	東京農工大学大学院農学研究院　准教授
高橋潔	国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム領域　領域長
松田和秀	東京農工大学農学部附属都市圏フィールドサイエンス教育研究センター　教授
宮脇健太郎	明星大学理工学部　教授
四ノ宮美保	大妻学院大妻女子大学社会情報学部　教授
小松登志子	埼玉大学大学院理工学研究科　名誉教授

5.4　学会等における研究発表

5.4.1 論文

（31件）

	論　文　名	執　筆　者	掲　載　誌
1	Hydrogen peroxide measured in the Tokyo Metropolitan area, Japan: Case studies during summer campaigns in 2022 and 2023	K. Watanabe, T. Akahori, S. Kaji, N. Mitsutsuji, M. Chatani, S. Yonemochi, R. Takahashi, H. Shinozaki, K. Shinohara, H. Okochi, H. Hayami	SOLA, Vol.21, pp.191-198 (2025) DOI:10.2151/sola.2025-024
2	Role of main mineral components of dust particles in O_3 formation in urban air	J. Lu, S. Lu, H. Niu, J. Zhao, G. Hou, X. Liu, S. Yonemochi	Journal of Shanghai University (Natural Science Edition), Vol.31, No.2, pp.264-273 (2025) DOI:10.12066/j.issn.1007-2861.2649
3	通年採取された大気試料による埼玉県における$PM_{2.5}$の毒性評価とその規定要因	長谷川就一、韓雪、本田晶子、奥田知明、高野裕久	大気環境学会誌、Vol.60、No.5、pp.76-86（2025） DOI:10.11298/taiki.60.76
4	$PM_{2.5}$成分の長期測定データを用いた自動車排出ガス影響の解析	高野七海、長谷川就一、太田優、柴田学	全国環境研会誌、Vol. 51、No.1、pp.24-29（2026）
5	Three distinct precipitation patterns characterized by sulfate analysis in individual raindrops	M. Shirakura, K. Murata, B. Nanzai	Aerosol and Air Quality Research, Vol.26, 33 (2026) DOI:10.1007/s44408-026-00114-5
6	Passivation remediation of Cd-contaminated farmland in Yongkang, China by CaAl-LDH: A mechanism and application study	X. Lu, N. Wei, H. Fang, F. Hu, J. Cheng, R. Sun, Y. Chen, J. Zhang, Y. Chen, X. Zhang, K. Oh, T. Yonekura, X. Chen, J. Niu, X. Wang	Agronomy, Vol.15, Issue 10, 2354 (2025) DOI:10.3390/agronomy15102354
7	Screening of profitable chrysanthemums for the phytoremediation of cadmium-contaminated soils	X. Lu, Y. Chen, J. Song, J. Bao, C. Dai, R. Sun, J. Liu, C. Jin, N. Zhong, C. Huang, K. Oh	Toxics, Vol.13, Issue 5, 360 (2025) DOI:10.3390/toxics13050360
8	A novel enzyme-based strategy for improving compost quality using extracts from spent mushroom substrate	H. Zhang, Y. Liu, J. Chang, B. Wei, C. Cheng, T. Fujino, K. Oh, H. Cheng	Journal of Environmental Management, Vol.400, 128737 (2026) DOI:10.1016/j.jenvman.2026.128737
9	Biochar-mediated regulation of gaseous emissions and microbial community during the whole vermicomposting process	Y. Liu, Z. Liu, J. Chang, Y. Wang, J. Dang, N. Liu, M. Chang, K. Oh, H. Zhang, H. Cheng	Journal of Cleaner Production, Vol.545, 147755 (2026) DOI:10.1016/j.jclepro.2026.147755
10	Coupled H_2O_2 oxidation and UV/TiO_2 film photocatalysis pretreatment: A sustainable strategy to enhance enzymatic hydrolysis of corn straw	K. Hu, B. Cai, X. Gao, T. Fujino, K. Oh, H. Cheng, J. Chang, N. Liu, Y. Jin, W. Wang, H. Zhang	Industrial Crops and Products, Vol.241,122770 (2026) DOI:10.1016/j.indcrop.2026.122770
11	Variation in growth enhancement by elevated CO_2 in Japanese mustard spinach (*Brassica rapa* var. *perviridis*)	M. Yamaguchi, Y. Hashiguchi, A. Fujikawa, S. Murayama, K. Miyaguchi, Y. Kinose, T. Yonekura	Journal of Agricultural Meteorology, Vol.81, Issue 2, pp.66-72 (2025) DOI:10.2480/agrmet.D-24-00025
12	Responses of aquatic biodiversity to irrigation timing and double-cropping regimes in rice paddies	N. Yasuno	Ecological Indicators, Vol.181, 114432 (2025) DOI:10.1016/j.ecolind.2025.114432

	論　文　名	執　筆　者	掲　載　誌
13	Unveiling heavy metal distribution in different agricultural soils and associated health risks among farming communities of Bangladesh	S. Sharmin, Q. Wang, Md. R. Islam, Y. Isobe, C.E. Enyoh, S. Wu	Environments, Vol.12, Issue 6, 198 (2025) DOI:10.3390/environments12060198
14	Continuous electrical resistivity tomography monitoring in waste landfill sites with different properties and visualization of water channels	Y. Isobe, H. Ishimori	Applied Sciences, Vol.15, Issue 12, 6920 (2025) DOI:10.3390/app15126920
15	Empirical study on failure prediction of rotating biological contactors available for landfill site operators: Scoring analysis based on 17-Year daily inspection reports	H. Ishimori, Y. Isobe, T. Ishigaki, M. Yamada	Applied Sciences, Vol.15, Issue 13, 6950 (2025) DOI:10.3390/app15136950
16	Time series analysis for optimizing leachate management in landfills under weather conditions with sudden heavy rain	H. Ishimori, Y. Isobe, T. Ishigaki, M. Yamada	Environmental Modeling & Assessment, Vol.31, Issue 2, pp.505-522 (2026) DOI:10.1007/s10666-025-10084-4
17	Heavy metal contamination in homestead agricultural soils of Bangladesh: Industrial influence, human exposure and ecological risk assessment	A. Sultana, Q. Wang, M. Suzuki, C.E. Enyoh, Md. S. Rana, Y. Isobe, W. Wang	Soil Systems, Vol.9, Issue 4, 136 (2025) DOI:10.3390/soilsystems9040136
18	Distribution of presumably contaminating elements (PCEs) in roadside agricultural soils and associated health risks across industrial, peri-urban, and research areas of Bangladesh	Md. S. Rana, Q. Wang, M. Suzuki, W. Wang, Y. Isobe, A. Sultana, T.O. Maduka	Sustainability, Vol.17, Issue 21, 9885 (2025) DOI:10.3390/su17219885
19	Investigating the relationship between resistivity tomography and methane emissions in a controlled dumpsite: A comprehensive study of resistivity profiles	P. Boonsakul, D. Suanburi, S. Towprayoon, C. Chiemchaisri, T. Ishigaki, Y. Isobe, K. Wangyao	Results in Engineering, Vol.26, 104648 (2025) DOI:10.1016/j.rineng.2025.104648
20	Peak separation of all seventeen 2,3,7,8-substituted polychlorinated dibenzo-*p*-dioxins and dibenzofurans in a single injection using a narrow-bore extended-length DB-17ms chromatography capillary column	K. Minomo, N. Ohtsuka, Y. Ochiai, S. Hashimoto	Environmental Monitoring and Contaminants Research, Vol.5, pp.83-88 (2025) DOI:10.5985/emcr.20250017
21	細径・延長DB-17msカラムを用いた29TEFダイオキシン類異性体の一斉分析	蓑毛康太郎、大塚宜寿、落合祐介、橋本俊次	環境化学、Vol.35、pp.47-55 (2025) DOI:10.5985/jec.35.47
22	魚類中揮発性メチルシロキサン分析法の開発と環境汚染評価への適用	堀井勇一、蓑毛康太郎	分析化学、Vol.74、No.10・11、pp.593-602 (2025) DOI:10.2116/bunsekikagaku.74.593
23	Applicability of artificial sweeteners as markers of wastewater contamination in Japanese surface waters	S. Takemine, S. Shibamori, K. Sankoda, T. Nishino, M. Motegi, I. Mishima	Environmental Pollution, Vol.384, 127023 (2025) DOI:10.1016/j.envpol.2025.127023
24	ダイオキシン類の汚染源別大気降下量の推算	落合祐介、蓑毛康太郎、大塚宜寿	分析化学、Vol.74、No.10・11、pp.587-592 (2025) DOI:10.2116/bunsekikagaku.74.587

	論　文　名	執　筆　者	掲　載　誌
25	合併・単独処理浄化槽放流水および生活雑排水を対象とした藻類生長阻害試験による生長阻害物質の推定	陳凱杰、田中仁志、武田文彦、蛯江美孝、山崎宏史	土木学会論文集、Vol.81、No.8、24-00238 (2025) DOI:10.2208/jscejj.24-00238
26	Protocol for the enrichment cultivation of anammox bacteria utilizing local resources	I. Mishima, K. Tanaka, N. Mase, K. Isaka	Water Science & Technology, Vol.93, Issue 2, pp.131-145 (2026) DOI:10.2166/wst.2026.192
27	Limiting effects of Fe(II), Cu(II), and Mn(II) on nitrite-oxidizing bacteria during the start-up of a continuous-feeding reactor	R. Hamabe, Y. Saito, T. Kondo, I. Mishima, K. Isaka	Biochemical Engineering Journal, Vol.226, 109948 (2026) DOI: 10.1016/j.bej.2025.109948
28	High-resolution fecal pharmacokinetic modeling in mice with orally administered antibiotics	R. Maskawa, L. Takayasu, H. Takayasu, K. Watanabe, S. Takemine, T. Kakimoto, K. Takeshita, S. Narushima, W. Suda, M. Takayasu	Scientific Reports, Vol.15, 24441 (2025) DOI:10.1038/s41598-025-10293-7
29	Complete genome sequences of five *Limnohabitans* strains isolated from two shallow eutrophic lakes in Japan	R. Kurokawa, K. Watanabe, Y. Ogata, S. Takemine, M. Takagi, C. Shindo, W. Suda	Microbiology Resource Announcements, Vol.14, Issue 12, e00944-25 (2025) DOI:10.1128/mra.00944-25
30	Complete genome sequences of seven *Polynucleobacter* sp. subcluster PnecB2 strains (HIN5, HIN6, HIN7, HIN8, HIN9, HIN10, and HIN11) isolated from a shallow brackish eutrophic lake in Japan	H. Masuoka, Y. Ogata, K. Watanabe, R. Kurokawa, S. Takemine, M. Takagi, C. Shindo, W. Suda	Microbiology Resource Announcements, Vol.15, Issue 4, e01402-25 (2026) DOI:10.1128/mra.01402-25
31	*Sediminibacterium planctonicum* sp. nov. and *Sediminibacterium longum* sp. nov., isolated from surface lake and river water	K. Watanabe, R. Kurokawa, Y. Ogata, C. Shindo, S. Takemine, Y. Ishii, W. Suda	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, Vol.76, Issue 2, 007060 (2026) DOI:10.1099/ijsem.0.007060

（注）当センターの職員には下線を付した。
（注）抄録は、７．４．１論文抄録を参照

５.４.２ 国際学会プロシーディング

（29件）

	論　文　名	執　筆　者	会　議　録
1	Arctic weather patterns in summer and their representation in a large ensemble climate simulation	A. Yamagami, T. Toyoda	Proceedings of the 40th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2026, C-5 (2026) (16 Feb. 2026, Mombetsu, Japan)
2	Magnetic properties of atmospheric aerosols (2)—observations and analysis at the summit of Mount Fuji	C. Ueno, S. Yonemochi, K. Murata, H. Okochi, A. Sorimachi	Abstract of the Pacifichem 2025, 415 (2025) (16 Dec. 2025, Hawaii, USA)
3	Availability of regional climate data for improving reproducibility of extreme events in a regional climate model	N. Kawano, M. Nishimori, A. Yamagami, T. Shimada, H. Yamato	Abstract of the Asia Oceania Geosciences Society (AOGS2025), AS26-A016 (2025) (29 Jul. 2025, Singapore)
4	Co-benefits of low-carbon strategy in Japan on surface ozone concentration in cities	N. Kawano, T. Nagashima, S. Itahashi, T. Ohara, J. Kurokawa, T. Hanaoka, I. Uno	Abstract of the 12th International Conference on Urban Climate (ICUC12), ICUC12-971 (2025) (8 Jul. 2025, Rotterdam, Netherland)

	論　文　名	執　筆　者	会　議　録
5	Investigating the influence of distributed anthropogenic heating to simulated ozone formation	M.D.C. Andal, A.C.G.Varquez, M. Kanda, S. Nagata, M. Takigawa, P.K. Patra, P. Griffiths, N. Kawano, A. Yamakami, Q.V. Doan	Abstract of the 12th International Conference on Urban Climate, (ICUC12), ICUC12-570 (2025) (11 Jul. 2025, Rotterdam, Netherland)
6	BVOC emission flux and areal uncertainty assessment by integrated tower and drone observations	Y. Ichikawa, K. Yoshida, S. Yonemochi, Y. Yamamoto, H. Watanabe, K. Takagi, A. Sorimachi, K. Matsuda, T. Ohara	Abstract of the 68th Annual Conference of the Korean Society for Atmospheric Environment, p.103 (2025) (15 Oct. 2025, Gwangju, Korea)
7	The EANET VOCs project: Capacity building of VOCs monitoring in East Asia	M. Huo, Y. Ichikawa, G. Ganbat, T-O. Soyol-Erdene, B. Barkhasragchaa, J.T. Del Socorro, R. Evangelista, S.L. Aytona, J.M.A. Tugano, P. Oanh, J. Hoshi	Abstract of the 68th Annual Conference of the Korean Society for Atmospheric Environment, p.102 (2025) (15 Oct. 2025, Gwangju, Korea)
8	Comparison of measured and modeled deposition velocities of atmospheric aerosols between the atmosphere and vegetation	A. Sorimachi, Y. Masuda, K. Matsuda, K. Murata, Y. Ichikawa	Abstract of the Pacifichem 2025, 414 (2025) (16 Dec. 2025, Hawaii, USA)
9	Very-near-field observations of natural lightning at Mt. Fuji: Toward integrated studies of chemistry and gamma-ray emissions	M. Kamogawa, T. Suzuki, D.M. Smith, J. Ortberg, M. Yasumoto, T. Enoto, M. Tsurumi, K. Murata, H. Fujiwara, T. Wu, D. Wang, R. Wada, S. Kato, H. Okochi, K. Miura, T. Kudo, K. Kawai	Abstract of the AGU25, AE23B-2330 (2025) (16 Dec. 2025, New Orleans, USA)
10	Integrating bioenergy and ornamental plants into phytoremediation for sustainable restoration and economic utilization of contaminated soils	K. Oh	Abstract of the 2025 14th International Conference on Environment, Energy and Biotechnology, pp.12-13 (2025) (26 Jul. 2025, Jeju, Korea)
11	Phytoremediation potential and economic value of different ornamental chrysanthemum (*Chrysanthemum* spp.) cultivars in heavy metal contaminated soils	K. Oh, S. Yonemochi, T. Yonekura, Y. Isobe, M. Miwa, H. Cheng, T. Li.	Abstract of the 2025 14th International Conference on Environment, Energy and Biotechnology, pp.19-20 (2025) (26 Jul. 2025, Jeju, Korea)
12	Evaluation of soybean varieties for simultaneous biomass production and heavy metal remediation in contaminated soil	K. Oh, S. Yonemochi, T. Yonekura, Y. Isobe, M. Miwa	Abstract of the 2025 16th International Conference on Environmental Science and Technology, pp.67-68 (2025) (23 Nov. 2025, Tokyo, Japan)
13	Economic phytoremediation: An innovative strategy for contaminated soil restoration, environmental conservation, and food security	K. Oh	Abstract of the 2026 12th International Conference on Advances in Environment Research, p.11 (2026) (17 Jan. 2026, Sapporo, Japan)
14	Heavy metal leaching characteristics of recycled concrete aggregate mixed with clay brick aggregate and its safety as a roadbed material in Vietnam	A. Matsuno, Y. Isobe, K. Nakamura, V.P. Nam, V. T. Nguyen, H.G Nguyen, H. Sakanakura, K. Kawamoto	Abstract of the 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, Code 2100 (2026) (9 Mar. 2026, Bangkok, Thailand)

	論　文　名	執　筆　者	会　議　録
15	Do methylsiloxanes biomagnify in marine food web? A case study of Tokyo Bay, Japan	Y. Horii, N. Yasuno, T. Nishino, T. Sakurai	Abstract of the SETAC North America 46th Annual Meeting, pp.400-401 (2025) (20 Nov. 2025, Portland, USA)
16	Impacts of waste incinerator flue gas and re-suspension on atmospheric combustion-origin dioxins deposition	Y. Ochiai, K. Minomo, N. Ohtsuka,	Abstract of the 17th Asian Conference on Analytical Sciences (ASIANALYSIS XVII 2025), p.169 (2025) (25 Sep. 2025, Sapporo, Japan)
17	Toxicity assessment of boron in *Daphnia magna* using conventional and novel toxicological metrics	D.K. Ganegoda, T. Fujino, I. Mishima	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.52 (2025) (5 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
18	Microbial consortium flora changes during the degradation process of 1,4-dioxane	A. Isoo, I. Mishima, Y. Saito, T. Kondo, K. Isaka	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.204 (2025) (6 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
19	Effect of organic substrate concentration on anammox activity and N_2O emission	A. Nitta, I. Mishima, H. Yamazaki, K. Isaka	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.206 (2025) (6 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
20	Estimation of N_2O emission sources on anammox process	M. Morimoto, I. Mishima, M. Kuroiwa, A. Terada, Y. Saito, T. Kondo, H. Yamazaki, K. Isaka	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.207 (2025) (6 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
21	Effect of Fe(II) and Mo(VI) on denitrification performance and N_2O emission	R. Aida, I. Mishima, H. Yamazaki, Y. Saito, T. Kondo, K. Isaka	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.213 (2025) (6 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
22	Effect of rate of increase in salt concentration on nitrification activity	N. Mase, I. Mishima, K. Isaka	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2025, p.214 (2025) (6 Jul. 2025, Nagaoka, Japan)
23	Molybdenum limitation effects on nitrogen removal performance and microbial community structure in single-stage anammox process	I. Mishima, A. Nitta, H. Kitahara, Y. Saito, T. Kondo, K. Isaka	Abstract of the 10th IWA-ASPIRE Conference and Water New Zealand Conference & EXPO (2025) (1 Oct. 2025, Christchurch, New Zealand)
24	Screening for 1,4-dioxane-degrading bacteria and evaluation of their activity	A. Isoo, I. Mishima, H. Minegishi, K. Isaka	Abstract of the 10th IWA-ASPIRE Conference and Water New Zealand Conference & EXPO (2025) (1 Oct. 2025, Christchurch, New Zealand)
25	Effect of Cu(II) and Fe(II) on denitrification performance and N_2O emission	R. Aida, I. Mishima, H. Yamazaki, K. Isaka	Abstract of the 10th IWA-ASPIRE Conference and Water New Zealand Conference & EXPO (2025) (1 Oct. 2025, Christchurch, New Zealand)

	論　文　名	執　筆　者	会　議　録
26	Effect of influent nitrite/ammonia ratio on the N_2O emission of anammox process	M. Morimoto, I. Mishima, M. Kuroiwa, A. Terada, H. Yamazaki, K. Isaka	Abstract of the 10th IWA-ASPIRE Conference and Water New Zealand Conference & EXPO (2025) (2 Oct. 2025, Christchurch, New Zealand)
27	Subsurface warming in the Tokyo metropolitan area, Japan: Governing factors and characteristics of temperature changes in low-permeability layers	A. Miyakoshi, T. Hayashi, H. Hamamoto, S. Hachinohe	Abstract of the 52nd Congress of the International Association of Hydrogeologists, p.140 (2025) (18 Sep. 2025, Melbourne, Australia)
28	How local wells worked for disaster risk reduction: A case study of the 2018 Western Japan flood	T. Endo, T. Kakimoto, M. Taniguchi	Abstract of the Asian Association for Environmental History (AAEH), #119 (2025) (29 Sep. 2025, Takamatsu, Japan)
29	Evaluation of a fully automated analytical method for PFAS in environmental water	M. Takazawa, R. Sasano, S. Takemine, M. Motegi, K. Kosaka	Abstract of the 45th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, pp.458-459 (2025) (1 Nov. 2025, Antalya, Türkiye)

（注）当センターの職員には下線を付した。
（注）抄録は、７．４．２ 国際学会プロシーディング抄録　を参照。

5.4.3 総説・解説

（21件）

	題　　名	執　筆　者	掲　載　誌
1	丸い地球で環境を考える―百聞は一見にしかず―	植松光夫	法人うらわ、No.258、p.7 (2025)
2	丸い地球で環境を考える―内に秘められた熱―	植松光夫	法人うらわ、No.259、p.5 (2025)
3	丸い地球で環境を考える―全てのものは毒である―	植松光夫	法人うらわ、No.260、p.9 (2025)
4	丸い地球で環境を考える―地球はひとつ、海もひとつ―	植松光夫	法人うらわ、No.261、p.4 (2026)
5	有機フッ素化合物PFASの特徴と水環境中の挙動	茂木守	科学と工業、Vol.99、No.4、pp.110-116 (2025)
6	ドローンを活用した都市大気汚染の解明～関東上空で光化学スモッグの鉛直分布を調べる～	米持真一、市川有二郎	日本ヒートアイランド学会誌、Vol.20、pp.6-9 (2025)
7	ドローンを活用して上空の大気汚染解明に挑戦	米持真一	ぶぎんレポート、No.300、pp.28-29 (2025)
8	気候変動適応策としての熱中症対策について	嶋田知英	環境ニュース、No.187、pp.10-11 (2025)
9	埼玉県内における熱中症対策の取組事例の紹介－埼玉県気候変動適応センターを中心に－	大和広明	保健医療科学、Vol.74、No.2、pp.103–111 (2025)
10	どうすれば都市に迫る豪雨を予測できる？	河野なつ美	ぶぎんレポート、No.301、pp.28–29 (2025)

	題　　名	執　筆　者	掲　載　誌
11	Future prospective of photochemical ozone in Japan under 2050 carbon-neutral environment	T. Nagashima, N. Kawano, S. Itahashi, T. Ohara, T. Hanaoka, J. Kurokawa, I.Ueno	Global Environmental Research, Vol.29, Issue 1, pp.79-86 (2025) DOI: 10.57466/ger.29.1_79
12	Impact of ozone on agricultural crops in Japan	T. Yonekura	Global Environmental Research, Vol.29, Issue 1, pp.51-57 (2025) DOI: 10.57466/ger.29.1_51
13	田植え時期から読み解く田んぼの生物多様性	安野翔	ぶぎんレポート、No.298、pp.32-33 (2025)
14	ごみ埋立地の終活のための基準づくり	長森正尚	ぶぎんレポート、No.299、pp.30-31 (2025)
15	ガス発生非増加基準の調査と評価	長森正尚	都市清掃、Vol.79、No.389、pp.26-31 (2026)
16	ベトナムの建設廃棄物リサイクルに大きく貢献	磯部友護	ぶぎんレポート、No.303、pp.30-31 (2025)
17	見えない魚を「水」から探る ― 環境DNA分析がひらく新しい生物調査	木持謙	ぶぎんレポート、No.304、pp.30-31 (2025)
18	総説・水環境学の進歩－研究委員会編(13)の発刊にあたって	見島伊織	水環境学会誌、Vol.48(A)、No.12、p.425 (2025)
19	水の中の微生物は何をしているのか	渡邊圭司	ぶぎんレポート、No.302、pp.26-27 (2025)
20	総説・水環境学の進歩－研究委員会編(13)身近な生活環境研究委員会の活動報告と研究動向	柿本貴志	水環境学会誌、Vol.48(A)、No.12、pp.446-450 (2025)
21	PFAS標準試薬用の高気密瓶開発	髙沢麻里	ぶぎんレポート、No.297、pp.30–31 (2025)

（注）当センターの職員には下線を付した。
（注）抄録は、７．４．３ 総説・解説抄録　を参照。

5.4.4 国内学会発表

（115件）

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
1	2025. 5.26	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	モンゴル アルカリ塩湖における低温下での重金属濃縮と吸着作用	丹秀也、福士圭介、B.Gankhurel、北島卓磨、深谷創、D. Davaasuren、依田優大、高橋嘉夫
2	2025. 5.27	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	首都圏の地下温度長期観測に認められた地下温暖化―低透水層内の温度変化の特徴と要因	宮越昭暢、林武司、濱元栄起、八戸昭一
3	2025. 5.28	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	固相抽出法とICP-MSによる河川水中の溶存金属イオン測定	北島卓磨、大塚宜寿、竹峰秀祐
4	2025. 5.28	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	地方自治体における「再生可能エネルギー熱」研究の取り組み事例	濱元栄起、石山高、柿本貴志、髙沢麻里、大和広明、嶋田知英
5	2025. 5.28	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	日本列島陸域における地殻熱流量データ：気候変動による擾乱と孔井内温度分布に基づく地表面温度変動の復元	山野誠、木下正高、濱元栄起

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
6	2025. 5.28	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	琵琶湖湖底流体湧出域における堆積物中の熱輸送の局所的な変動	山野誠、後藤秀作、濱元栄起
7	2025. 5.29	日本地球惑星科学連合2025年大会（千葉市）	Evaluation of temperature forecast in the marginal ice zone of the Chukchi Sea during the R/V Mirai Arctic expedition in November 2018	A. Yamagami, T. Toyoda, J. Inoue
8	2025. 5.31	2025年度日本雪氷学会北信越支部研究発表会（長野市）	富士山頂における微生物粒子個数濃度の連続測定	渡辺幸一、村田浩太郎、加藤俊吾
9	2025. 5.31	日本地下水学会2025年春季講演会（北里大学）	地下熱環境の簡易推定手法の検討～地中熱利用システム評価への活用	濱元栄起、宮越昭暢、宮下雄次
10	2025. 5.31	日本地下水学会2025年春季講演会（北里大学）	埼玉県内地下水の水質特性と安定度指数によるスケール生成傾向の予測	柿本貴志、濱元栄起、石山高、髙沢麻里
11	2025. 6. 4	第30回計算工学講演会	廃棄物埋立地のVUCAと長期適正管理を支援するデジタルツイン	石森洋行、磯部友護、石垣智基、山田正人
12	2025. 6.25	第30回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（京都大学）	黄鉄鉱の酸化と地下水質への影響	石山高、濱元栄起、柿本貴志、髙沢麻里
13	2025. 6.25	第30回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（京都大学）	地中熱ヒートポンプシステムの稼働を想定した埼玉県内地下水のスケール生成傾向の予測	柿本貴志、濱元栄起、髙沢麻里、石山高
14	2025. 6.25	第30回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（京都大学）	令和６（2024）年度における埼玉県地下水中PFOS及びPFOA調査	髙沢麻里、柿本貴志、濱元栄起、石山高、茂木守
15	2025. 7.12	第37回日本沿岸域学会研究討論会(札幌市)	デジタルツインプラットフォーム構築への市民参画－沿岸環境・生態系の統合的管理に向けて－	古川恵太、岡田知也、菊地淳、嘉藤亮、見島伊織、石井裕一、東博紀
16	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	河川水試料のGC-MSによるノンターゲット分析における同定精度の向上	大塚宜寿、竹峰秀祐、堀井勇一、蓑毛康太郎、橋本俊次
17	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	キャピラリーカラムにおけるダイオキシン類の移動ブレークスルー温度	蓑毛康太郎、大塚宜寿、落合祐介、橋本俊次
18	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	オンラインSPE-GC/MSと自動同定定量システム(AIQS)を用いた水試料中農薬スクリーニング分析法の妥当性評価	浅井智紀、佐々野僚一堀井勇一、中山崇、中島大介、Ⅱ型共同研究参加メンバー
19	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	AIQS-GCによる環境試料の定量値及び添加回収率の精度確認～Ⅱ型共同研究による試験所間比較試験～	中山崇、宮脇崇、加藤みか、伊藤朋子、門上希和夫、中島大介、Ⅱ型共同研究参加機関
20	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	窒素キャリアガスを用いたAPGC-MS/MSによるばいじん中のダイオキシン類の総TEQの測定	竹峰秀祐、小寺和樹、宮脇俊文、江﨑達哉蓑毛康太郎、堀井勇一、大塚宜寿、高橋厚、橋本俊次
21	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会（第33回環境化学討論会）（山形市）	窒素キャリアガスAPGC-MS/MSにおけるRxi-5Sil MSおよびDB-17msによるPCB全異性体溶出順位決定	小寺和樹、竹峰秀祐、宮脇俊文、江﨑達哉、蓑毛康太郎、大塚宜寿、高橋厚、橋本俊次

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
22	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	GC/MS を用いた環境ノンターゲットスクリーニング法の比較と評価	家田曜世、松神秀徳、 竹峰秀祐、江口哲史、 橋本俊次
23	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	窒素キャリアガスを用いたガスクロマトグラフィー／大気圧化学イオン化高分解能質量分析法の環境ノンターゲットスクリーニングへの応用	松神秀徳、家田曜世、 竹峰秀祐、橋本俊次
24	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	動植物におけるCs-137実効半減期の推定	落合祐介、蓑毛康太郎、 大塚宜寿
25	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	固相抽出法とICP-MSによる河川水中の溶存金属イオン測定	北島卓磨、大塚宜寿、 竹峰秀祐
26	2025. 7.15	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	環境水に含有されるPFASの全自動分析に向けた検討	髙沢麻里、佐々野僚一、 竹峰秀祐、茂木守、 小坂浩司
27	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	UAV(ドローン)を活用した上空1000mまでのO_3とVOCの観測	米持真一、市川有二郎、 村田浩太郎、石崎享、 山本祐志、水野誠一郎、 小野翔、磯田ムラー華奈、 渡邉紘人
28	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	富士山体を利用した自由対流圏および大気境界層における雲水化学観測(11)	廣瀬羽音、大河内博 押見基央、王一澤、 速水洋、勝見尚也、 皆巳幸也、米持真一、 三浦和彦、加藤俊吾、 和田龍一、竹内政樹 土器屋由紀子、畠山史郎
29	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	都市型森林域における人為起源VOCsの乾性沈着	市川有二郎、吉田雄仁、 高木健太郎、反町篤行、 松田和秀
30	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	水質中ダイオキシン類分析における粉末状クリーンアップスパイクの検討	蓑毛康太郎、谷脇夕希、 大塚宜寿、落合祐介、 橋本俊次
31	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	細径・延長DB-17msカラムによる29TEFダイオキシン類異性体の分離	蓑毛康太郎、大塚宜寿、 落合祐介、橋本俊次
32	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	底生食物網に着目したシロキサン類の生物蓄積性評価：埼玉県元荒川の研究事例（第2報）	堀井勇一、安野翔、 角田裕志、櫻井健郎
33	2025. 7.17	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	地球温暖化物質ハイドロフルオロカーボンの測定法開発と大気観測	市川有二郎、小野由紀子、 佐坂公規
34	2025. 7.17	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	メチルシロキサンの水圏食物網における生物蓄積挙動のモデル化	櫻井健郎、鈴木規之、 安野翔、堀井勇一

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
35	2025. 7.17	第4回環境化学物質合同大会 (第33回環境化学討論会) (山形市)	ノンターゲット液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法のガスクロマトグラフィー/化学イオン化質量分析による臭素化難燃剤分解物の解析への応用	鈴木茂、上堀美知子、 長谷川瞳、八木正博、 小野純子、西野貴裕、 竹峰秀祐、吉野共広、 長谷川敦子、 F. マッタースベルガー、 R. ウェーバー、東島正哉
36	2025. 7.31	第62回下水道研究発表会 (大阪市)	下水中の人工甘味料濃度による不明水の浸入箇所の推定方法の検討	竹峰秀祐、池田和弘、 松下みなみ、高橋務
37	2025. 8.23	日本哺乳類学会2025年度大会 (札幌市)	埼玉県の水田地帯におけるコウモリの生息地利用	牧貴大、安野翔
38	2025. 8.27	第42回エアロゾル科学・技術研究討論会（姫路市）	大気エアロゾルの磁気特性(4)―富士山頂での観測と解析	上野千嘉、増田裕季、 米持真一、村田浩太郎、 大河内博、反町篤行
39	2025. 8.27	第42回エアロゾル科学・技術研究討論会（姫路市）	埼玉県におけるPM2.5中フミン様物質の季節変動	長谷川就一
40	2025. 8.27	第42回エアロゾル科学・技術研究討論会（姫路市）	緩和渦集積法を用いた林床付近でのエアロゾルのフラックス測定	増田裕季、佐々木寛大、 市川有二郎、村田浩太郎、 反町篤行
41	2025. 8.27	第42回エアロゾル科学・技術研究討論会（姫路市）	都市近郊の森林における粒子状およびガス状有機酸の放出量測定	吉田雄仁、増田裕季、 村田浩太郎、市川有二郎、 松田和秀、反町篤行
42	2025. 8.29	第42回エアロゾル科学・技術研究討論会（姫路市）	大気エアロゾルの磁気特性(3)：都市郊外での観測	反町篤行、中原成美、 上野千嘉、増田裕季、 米持真一、村田浩太郎、 大河内博
43	2025. 9. 8 -9	日本微生物生態学会第38回東京大会（東京科学大学）	降雨中の微生物群集構造とカリウムイオン濃度が示す植物圏起源の痕跡	村田浩太郎
44	2025. 9. 8 -9	日本微生物生態学会第38回東京大会（東京科学大学）	埼玉県内ボーリングコアの細菌叢の特徴と淡水浮遊性細菌の地下水経由による移動の痕跡	渡邊圭司、石山高、 濱元栄起、柿本貴志、 八戸昭一、納谷友規 須田亙
45	2025. 9.10	雪氷研究大会（三重大学）	富士山頂における微生物粒子個数濃度の測定	渡辺幸一、村田浩太郎、 加藤俊吾
46	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	大気エアロゾルの磁気特性(5)―春季と夏季における都市郊外の観測	上野千嘉、中原成美、 米持真一、反町篤行
47	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	WRF-Chemを用いた都市型豪雨の予測実験	河野なつ美、 A.C.G. Varquez、 Q.V. Doan、山上晃央、 M.D. Andal、Z. Chen
48	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	アジア域大気質モデル計算におけるモデルドメイン内気象場ナッジングの影響	永島達也、河野なつ美、 板橋秀一、大原利眞
49	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	PM2.5成分の長期測定データを用いた一次排出・二次生成の変化解析	長谷川就一
50	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	林床におけるアンモニアの交換フラックス観測(3)落葉期と着葉期における測定	佐々木寛大、増田裕季、 髙野良太、村田浩太郎、 市川有二郎、反町篤行

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
51	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	タイ熱帯乾燥落葉樹林における土壌からの反応性窒素の放出フラックス測定	髙野良太、増田裕季、 徐懋、松田和秀、 佐瀬裕之、 P. Chanonmuang、 村田浩太郎、反町篤行
52	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	都市近郊の森林におけるPM2.5のフラックス測定	吉田雄仁、増田裕季、 村田浩太郎、市川有二郎、 松田和秀、反町篤行
53	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	東京郊外の森林における大気汚染物質の大気沈着量の調査：林内雨林外雨法を用いた雨水の物理化学特性の調査	佐藤功基、塩ノ谷拓真、 岩﨑遼太郎、増田裕季、 村田浩太郎、市川有二郎、 松田和秀、反町篤行
54	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	地表面におけるアンモニアの放出測定：土壌とリターによる放出量の違い	坂本祐誠、高野良太、 佐々木寛大、村田浩太郎、 反町篤行
55	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	林床におけるPM2.5の沈着速度の実測値とモデル値の比較	増田裕季、佐々木寛大、 村田浩太郎、市川有二郎、 反町篤行
56	2025. 9.17	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	水稲の収量に対するオゾンのクリティカルレベルの検討	米倉哲志
57	2025. 9.17	第36回廃棄物資源循環学会研究発表会（名古屋大学）	廃棄物最終処分場の上部利用時に集約したガス抜き管のガス放出量測定及びガス抜き機能の確認	長森正尚、長谷隆仁、 大石修、伊藤耕二、 原晃大、森明寛、 盛山哲郎、奥田知佳、 政井咲更美、高木智史、 安武大輔、P. Panida、 石垣智基、山田正人
58	2025. 9.17	第36回廃棄物資源循環学会研究発表会（名古屋大学）	不燃物と焼却残渣のみが埋立処分されている最終処分場の浸出水および周縁地下水の調査事例	田中宏和、山﨑慶子、 石山翔一、高木智史、 矢吹芳教、安武大輔、 長森正尚、森明寛、 石垣智基、遠藤和人、 山田正人
59	2025. 9.17	第28回日本水環境学会シンポジウム（富山県立大学）	分析法の適用範囲の把握を志向したケミカルスペースの可視化	竹峰秀祐、橋本俊次
60	2025. 9.17	第28回日本水環境学会シンポジウム（富山県立大学）	高度処理浄化槽への生物電気化学技術の適用による影響	窪田恵一、見島伊織、 渡邉智秀
61	2025. 9.17	日本地球化学会第72回年会 (東北大学)	アルカリ塩湖の凍結における重金属元素の挙動	丹秀也、福士圭介、 B.Gankhurel、 北島卓磨、深谷創、 D. Davaasuren、 依田優大、高橋嘉夫
62	2025. 9.17	日本地球化学会第72回年会 (東北大学)	富栄養湖沼千葉県手賀沼の有機物分解特性と炭素循環	時枝隆之、木持謙
63	2025. 9.18	第66回大気環境学会年会 (名古屋大学)	ドローンとタワーの統合観測による都市森林域におけるBVOCs放出フラックスの評価	市川有二郎、吉田雄仁、 米持真一、山本祐志、 渡邉紘人、高木健太郎、 反町篤行、松田和秀、 大原利眞

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
64	2025. 9.18	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	濃度勾配法による都市森林域におけるAVOCsの乾性沈着評価	市川有二郎、吉田雄仁、 高木健太郎、反町篤行、 松田和秀
65	2025. 9.18	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	大気中微生物の定量的モニタリングに適したDNA抽出法の検討	村田浩太郎、渡邊圭司、 市川有二郎、長谷川就一、 松本利恵、佐坂公規、 米持真一
66	2025. 9.18	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	都市郊外における湿性沈着の物理化学特性の調査	反町篤行、篠沢颯真、 増田裕季、村田浩太郎
67	2025. 9.18	第36回廃棄物資源循環学会研究発表（名古屋大学）	建設廃棄物の地域での資源循環と廃瓦の再生利用	山脇敦、高田実、 川嵜幹生、新妻弘章
68	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	自動車走行に伴い排出される磁性粒子の特徴	米持真一、城裕樹、 反町篤行、上野千嘉、 大河内博、杉山敦史、 呂森林
69	2025.9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの将来見通し （３）低オゾン達成のための感度実験	河野なつ美、永島達也、 板橋秀一、大原利眞、 花岡達也、黒川純一、 鵜野伊津志
70	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの将来見通し （１）大気質モデルによる将来シナリオ実験	永島達也、河野なつ美、 板橋秀一、大原利眞、 花岡達也、黒川純一、 鵜野伊津志
71	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの将来見通し （２）将来排出シナリオ	大原利眞、板橋秀一、 永島達也、河野なつ美、 花岡達也、黒川純一、 鵜野伊津志
72	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	$PM_{2.5}$中のHULISの濃度実態と由来の考察	長谷川就一
73	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	2024年夏季の富士山頂における微生物粒子個数濃度の測定	渡辺幸一、村田浩太郎、 加藤俊吾
74	2025. 9.19	第66回大気環境学会年会 （名古屋大学）	富士山頂における夏季の氷晶核数濃度と大気中細菌群集の観測（2023、2024年の結果）	村田浩太郎、渡辺幸一、 鴨川仁、大河内博、 米持真一
75	2025. 9.20 -21	日本地理学会2025年秋季学術大会（弘前大学）	埼玉県北部における水田と市街地の気温と暑さ指数の差	大和広明、安野翔
76	2025. 9.20	日本ヒートアイランド学会第20回全国大会（高松市）	Modeling the impact of anthropogenic heat on summer near-surface ozone in the Kanto region	M.D.C. Andal, A.C.G. Varquez,M. Kanda, P. Griffiths,P. Patra, M. Takigawa, N. Kawano, A. Yamagami, Q.V. Doan
77	2025. 9.20	日本ヒートアイランド学会第20回全国大会（高松市）	Investigating anthropogenic factors influencing Kanto’s localized heavy rainfall	Z. Chen, M.D. Andal, R. Ramos, A.C.G. Varquez, M. Kajino, P.K. Patra, M. Takigawa, P. Griffiths, M. Kanda, N. Kawano, A. Yamagami, Q.V. Doan
78	2025. 9.28	日本陸水学会第89回札幌大会 （北海道大学）	千葉県手賀沼の有機物分解特性と炭素循環への影響	時枝隆之、木持謙

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
79	2025.10.15	第39回全国浄化槽技術研究集会（水戸市）	米国における小型排水処理技術の環境性能評価	見島伊織、吉川直樹
80	2025.10.15	第39回全国浄化槽技術研究集会（水戸市）	汚泥処理を考慮した人口減少下の浄化槽と下水道の汚水処理事業費の比較	R. Ke、李玉友、西村修、小川浩、見島伊織、武田文彦、濱中俊輔
81	2025.10.17	日本地下水学会2025年秋季講演会（大垣市）	地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発－埼玉県を対象とした研究事例－	濱元栄起、石山高、柿本貴志、髙沢麻里、大和広明、嶋田知英、冨樫聡、G. Shrestha、石原武志、中山宏之、島田佑太朗、内田洋平
82	2025.10.17	日本地下水学会2025年秋季講演会（大垣市）	断水時に水確保が困難なところはどこか？埼玉県内自治体を対象とした検討例	柿本貴志、濱元栄起、髙沢麻里、石山高、遠藤崇浩、谷口真人
83	2025.10.17	日本地下水学会2025年秋季講演会（大垣市）	地下水の防災利用の実態－石川県七尾市住民アンケートの結果から－	遠藤崇浩、柿本貴志、谷口真人
84	2025.10.31	令和7年度水道研究発表会(広島市)	GISを活用した取水地点上流域における化学物質取扱実態の分析	柿本貴志、池田和弘
85	2025.11. 7	気象学会2025年度秋季大会(福岡市)	Investigating anthropogenic factors influencing Kanto's localized heavy rainfall	Z. Chen, M.D. Andal, R. Ramos, A.C.G. Varquez, M. Kajino, P.K. Patra, M. Takigawa, P. Griffiths, M. Kanda, N. Kawano, A. Yamagami, Q.V. Doan
86	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	管理釣り場における釣り餌の投入が水質に与える影響評価	木持謙、池田和弘、渡邊圭司、岸田直裕、沢田典大、藤原亮
87	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	Fe(Ⅱ)濃度がアンモニア酸化活性およびN_2O転換率へ及ぼす影響	麻生侑里、見島伊織、山崎宏史、井坂和一
88	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	脱窒プロセスにおける水素供与体源と添加量がN_2O発生量に及ぼす影響	雨宮和帆、斎藤弥生、近藤貴志、見島伊織、山崎宏史、井坂和一
89	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	Cu(Ⅱ), Ni(Ⅱ)制限が一槽型アナモックスプロセスへ及ぼす影響	佐々木俊輔、斎藤弥生、近藤貴志、見島伊織、山崎宏史、井坂和一
90	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	脱窒プロセスにおける流入窒素濃度とMo(VI)要求量の関係	相田怜夢、斎藤弥生、近藤貴志、見島伊織、山崎宏史、井坂和一
91	2025.11.15	日本水処理生物学会第61回川越大会（東洋大学）	Cu(Ⅱ), Mn(Ⅱ)が1,4-ジオキサン分解活性に及ぼす影響	阿久津崚、見島伊織、池道彦、井坂和一
92	2025.11.16	第53回環境システム研究論文発表会（福岡大学）	生物多様性保全および魚類の情報提供が市民の水辺価値評価にもたらす影響	五十嵐佳月、木持謙、大塚佳臣
93	2025.12. 4	第62回環境工学研究フォーラム（宮崎市）	下水および河川水中で検出されるトリプトファン様物質ピーク強度と総溶存アミノ酸濃度の関係	池田和弘、竹峰秀祐、渡邊圭司、日下部武敏
94	2026. 1.22	第47回全国都市清掃研究・事例発表会（松山市）	跡地利用中の廃棄物最終処分場における廃止に向けた埋立地ガスモニタリング	石垣智基、P. Payomthip、山田正人、長森正尚、矢吹芳教、森明寛

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
95	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	埼玉県内河川におけるフルオレセイン由来蛍光ピークの変動特性	池田和弘、竹峰秀祐
96	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	一槽型アナモックスプロセスの低窒素濃度・低温条件下における窒素除去性能の評価	藤澤奈々美、見島伊織、 斎藤弥生、近藤貴志、 井坂和一
97	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	化学工場の土壌から集積培養した1,4-ジオキサン分解系の排水処理への適応	清水裕貴、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 井坂和一
98	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	一槽型アナモックスプロセスにおけるN_2O排出量の評価とMn(Ⅱ), Co(Ⅱ)制限の影響	佐々木俊輔、見島伊織、 斎藤弥生、近藤貴志、 山崎宏史、井坂和一
99	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	アナモックスプロセスにおける窒素濃度がZn(II)要求量に及ぼす影響	竹腰弘暉、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 山崎宏史、井坂和一
100	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	異なる窒素濃度条件下におけるリン制限が硝化活性およびN_2O排出量に及ぼす影響	福田翼、見島伊織、 斎藤弥生、近藤貴志、 山崎宏史、井坂和一
101	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	アナモックスプロセスにおける有機物添加が窒素除去性能とN_2O排出量に及ぼす影響	冨永春暉、新田朱梨、 斎藤弥生、近藤貴志、 見島伊織、黒岩恵、 寺田昭彦、山崎宏史、 井坂和一
102	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	Prevalence of class 1 integron as a comprehensive indicator of antimicrobial resistance in public water environment in Saitama Prefecture	T. Lanuyanger, I. Mishima, M. Suzuki, F. Kurisu, I. Kasuga
103	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	熱分解GC/MS生成物プロファイルに基づく大阪湾底質有機物組成とSODの関連解析	近藤健、森育子、 上田真由美、大野耕平、 大前知輝、秋山諭、 矢吹芳教、布施泰朗、 初雪、石井裕一、見島伊織
104	2026. 3.9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	MFCが排水中の鉄およびリンに及ぼす影響の調査	鈴木智貴、渡邉智秀、 窪田恵一、見島伊織
105	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	合成甘味料をMolecular Makerとした河川への下水の寄与の評価	高田秀重、阪野まりん、 水川薫子、髙沢麻里
106	2026. 3. 9	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	埼玉県内河川における魚類環境DNA調査の展開と地域への情報発信	木持謙、渡邊圭司、 田中仁志、大塚佳臣
107	2026. 3.10	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	東京湾におけるPFASの濃度分布	諸熊恵美、山崎彩花、 田上瑠美、前田稜太、 堀井勇一、水川薫子、 櫻井健郎、石橋康弘、 小林淳
108	2026. 3.10	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	チリ国沿岸域および湖沼におけるマイクロプラスチックの環境影響に関する予備的検討	田中仁志、藤吉奏、 丸山史人、岩本洋子、 R.A. Valencia、J. Acuña、 J.M. Alberto、F.C. Balic
109	2026. 3.10	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	1,4-ジオキサンを分解する混合細菌系および単離株の動力学的解析	磯尾彩華、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 井坂和一

	期　　日	学　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
110	2026. 3.11	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	脱窒プロセスにおけるN_2O排出量の抑制に向けたCu(Ⅱ)添加効果の検討	相田怜夢、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 山崎宏史、井坂和一
111	2026. 3.11	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	硝化プロセスの高塩類濃度への適応とN_2O排出量削減へ向けた馴養戦略	間瀬直翔、見島伊織、 斎藤弥生、近藤貴志、 山崎宏史、井坂和一
112	2026. 3.11	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	硝化プロセスにおける窒素濃度に応じたFe(Ⅱ), Cu(Ⅱ)要求量とN_2O排出量の関係	麻生侑里、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 山崎宏史、井坂和一
113	2026. 3.11	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	アナモックスプロセスにおけるN_2O排出抑制に向けた有機物添加効果の検証	新田朱梨、斎藤弥生、 近藤貴志、見島伊織、 黒岩恵、寺田昭彦、 山崎宏史、井坂和一
114	2026. 3.11	第60回日本水環境学会年会 (中央大学)	*Hyphomicrobium* sp. N1株を用いた脱窒プロセスにおける有機物源と添加量がN_2O排出量に及ぼす影響	雨宮和帆、見島伊織、 山崎宏史、井坂和一
115	2026. 3.12	第73回日本生態学会大会 (京都大学)	水田の湛水開始時期がサギ類の採餌環境を左右する：衛星画像による季節変化の解析	安野翔、大和広明

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.4.5 その他の研究発表

（113件）

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
1	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	ドローンを活用して上空の大気汚染を解明する～光化学スモッグの解明のため未知の領域に挑戦～	米持真一
2	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	人為起源の二酸化炭素濃度への影響を解析！～二酸化炭素濃度と大気汚染物質濃度との関係について～	武藤洋介
3	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	埼玉県における気候変動適応策の社会実装	嶋田知英
4	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	市民の目撃記録による特定外来生物マスクラットの分布状況の把握	角田裕志、嶋田知英
5	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	インターネットにつながる暑さ指数計の開発及び情報発信による熱中症対策の社会実装の試行	大和広明
6	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	夏の大気を詳しく調査！～光化学オキシダント発生の原因を探る揮発性有機化合物の観測～	佐坂公規
7	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地球温暖化に大きく影響を及ぼしている代替フロン類（HFCs）の大気観測	市川有二郎
8	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	資源植物を活用した収益型ファイトレメディエーション～（重金属汚染土壌の修復技術）の確立～	王効挙

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
9	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	光化学オキシダントは植物に様々な悪影響を及ぼす！～水稲の収穫量などに及ぼす影響に着目して～	米倉哲志
10	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	田植え時期が変わると田んぼの生き物の顔ぶれも変わる！？	安野翔
11	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	「ごみの安定化」を調べる！～埋立地ガス評価方法の改訂～	長森正尚
12	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	シール(ラベル)の台紙はリサイクルできますか？	川嵜幹生
13	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	最終処分場の新たな管理を目指した実務者・管理者と研究者の連携	磯部友護
14	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	紙中ダイオキシン類の推移	蓑毛康太郎
15	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	有害化学物質のスクリーニング分析法の開発	竹峰秀祐
16	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	原子力発電所事故10年後における生態園での環境放射能の現況及び変遷	落合祐介
17	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	自動車からアンモニアが排出されるって本当⁉～幹線道路周辺でアンモニア濃度を測定しました～	松本利恵
18	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	川の学習イベント「生き物と水の汚れの関係を知って、川を守ろう、親しもう」	田中仁志
19	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	河川の汚濁をより早く検知・評価する手法を開発する	池田和弘
20	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	水の中の微生物は何をしているのか～微生物は地球を救う！(のか？)～	渡邊圭司
21	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	逆転の発想！産業廃棄物を有用資源に！！～ホタテ貝の貝殻片を用いた低コスト土壌汚染対策技術の開発～	石山高
22	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	脱炭素技術の切り札！地中熱ヒートポンプ！～埼玉県での地中熱ヒートポンプの効果を科学的に調べる～	濱元栄起
23	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地域の水資源を断水時の生活用水として活用する～災害による断水時にも必要な水を確保できる社会の構築に向けて～	柿本貴志
24	2025. 5. 6	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地下水に含まれる"PFOS" "PFOA"の濃度を知る！	髙沢麻里

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
25	2025. 5.30	廃棄物資源循環学会 令和7年度春の研究討論会埋立処理処分研究部会（川崎市）	埋立処理処分研究部会『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』改訂版の公開について 「第３章 安定化要件適合性調査・判定」	長森正尚
26	2025. 7.15 –18	第4回環境化学物質合同大会、企業展示（山形市）	PFASs分析対応高気密標準試薬保存瓶	髙沢麻里、竹峰秀祐、木村要
27	2025. 7.15 –18	第4回環境化学物質合同大会、企業展示（山形市）	環境水に含有されるPFASの全自動分析に向けた検討	髙沢麻里、佐々野僚一、竹峰秀祐、茂木守、小坂浩司
28	2025. 7.16	第4回環境化学物質合同大会ランチョンセミナー(山形市)	LC/QTOFMSによるサスペクト/ノンターゲットスクリーニングとその環境異変時への応用	竹峰秀祐
29	2025. 8.22	令和7年度河川基金研究成果発表会（東京都中央区）	水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及	田中仁志
30	2025. 8.26	APN Research Project Stakeholder Workshop (Selangor, Malaysia)	Heatwave and UHI guidelines in Japan	N. Kawano
31	2025. 9. 2	2025 Clean Air International Forum (Gyeonggi, Korea)	Air quality initiatives by the local government and research institute in Japan	Y. Ichikawa
32	2025. 9. 8	第32回2025年度 瀬戸内海研究フォーラム in 香川 (高松市)	大阪湾底質の酸素消費速度について	近藤健、森育子、秋山論、上田真由美、大野耕平、大前知輝、矢吹芳教、石井裕一、見島伊織
33	2025. 9.19	第36回廃棄物資源循環学会研究発表会 全国環境研協議会発表会（名古屋大学）	廃リチウムイオン電池の残存電気量調査	川嵜幹生、小西まどか、高橋拓也、鈴木和将
34	2025. 9. 24	2025 Special Seminar on the IDEC Institute (Higashi Hiroshima, Japan)	Observation studies of ice-nucleating particles and bioaerosols:Cases from the atmosphere at Mt.Fuji and rainfall in Saitama	K. Murata
35	2025.10. 2	筑波会議2025（つくば市）	Model development for enhancing urban flood resilience	河野なつ美
36	2025.10.16 -17	2025年度第32回日環協・環境セミナー全国大会 in EZO (札幌市)	PFASs分析対応高気密標準試薬保存瓶	髙沢麻里、竹峰秀祐、木村要
37	2025.10.16 -17	2025年度第32回日環協・環境セミナー全国大会 in EZO (札幌市)	オンラインSPE-LC/MSを用いた水試料中PFASの一斉分析法の開発	佐々野僚一、髙沢麻里、丸山千明、浅井智紀、竹峰秀祐
38	2025.10.17	Bioaerosol Seminar III (Temco, Chile)	Microplastic pollution in seasonal landscapes: Insights from Japan and opportunities for global academic engagement	H. Tanaka
39	2025.10.17	令和7年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会 (宇都宮市)	三次元励起蛍光スペクトル法で検出されるフルオレセイン由来蛍光の汚濁指標性	池田和弘、竹峰秀祐
40	2025.10.30	The 18th Japan–Korea Environmental Symposium (Jeju, Korea)	Saitama's water environment and preservation strategies	H. Tanaka

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
41	2025.11. 6	第28回自然系調査研究機関ネットワーク(NORNAC28)(富士吉田市)	埼玉県の水田地帯における携帯型バットディテクターを用いたコウモリの生息地利用調査	牧貴大
42	2025.11.13	第52回環境保全・公害防止研究発表会（土浦市）	多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用（中間とりまとめ）	田中仁志、地方環境研究所9機関、山本裕史、渡部春奈
43	2025.11.14	第52回環境保全・公害防止研究発表会（土浦市）	海岸に近い陸上埋立最終処分場における浸出水および周縁地下水の調査事例	田中宏和、山﨑慶子、石川翔一、高木智史、矢吹芳教、安武大輔、長森正尚、森明寛、石垣智基、遠藤和人、山田正人
44	2025.11.14	第52回環境保全・公害防止研究発表会（土浦市）	安定型最終処分場において観測された高濃度窒素ガス組成の形成メカニズムの解明	石垣智基、山田正人、森明寛、長森正尚
45	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	空気中をただよう磁性を持つ粒子～自動車と鉄道から発生する磁性粒子の解明～	米持真一
46	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	埼玉県における気候変動適応策の社会実装	嶋田知英
47	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	水害リスクを最小化する！都市防災における気象予測技術の開発	河野なつ美
48	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	地球温暖化により日本の気圧配置と極端気象の発生確率がどう変わるかを知る	山上晃央
49	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	夏の大気を詳しく調査！～GC-MSで探る揮発性有機化合物（VOC）の観測～	佐坂公規
50	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	排出が増加する地球温暖化物質HFCsを見逃さない～埼玉県内で初めての大気観測～	市川有二郎
51	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	汚染から収益へ～植物修復技術が拓く土壌資源の保全と持続的利用への挑戦～	王効挙
52	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	植物保護のための光化学オキシダント環境基準の提案～水稲の収量に対するオゾンのクリティカルレベルの検討～	米倉哲志
53	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	田植えのタイミングが生き物を変える！	安野翔
54	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	使用済みリチウム蓄電池の放電処理～中学校で習った水の電気分解を使ってます～	川嵜幹生
55	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会(環境科学国際センター)	ごみ埋立地の後始末～ハイテクに頼らない水処理をめざす～	長谷隆仁

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
56	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	SDGsから考えるプラスチック資源循環	鈴木和将
57	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	ダイオキシン類一斉測定の試み	蓑毛康太郎
58	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	難分解性化学物質：シリコーン化合物の環境評価	堀井勇一
59	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	137Csを指標とした燃焼由来のダイオキシン類における再浮遊量の評価	落合祐介
60	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	河川中の金属の形態別分析法の開発～生物が使える金属と使えない金属!?～	北島卓磨
61	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	水を調べると魚がわかる？～環境DNAで広がる生態調査の未来～	木持謙
62	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	細菌の力で温暖化対策！～アナモックス反応を利用した排水処理～	見島伊織
63	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	水の中の微生物は何をしているのか？～微生物は川の汚れをきれいにしている！～	渡邊圭司
64	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	微生物に着目した画期的な土壌汚染対策！！～アルカリ材を用いた低コスト型土壌汚染対策技術の開発～	石山高
65	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地中熱利用の実証試験と農業への適用～埼玉県でも使える再エネ熱！～	濱元栄起
66	2025.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	身近にあった井戸のお陰で助かった～令和６年能登半島地震被災地の声～	柿本貴志
67	2025.11.21	令和７年度全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会 (甲府市)	排出が増加する地球温暖化物質HFCsを見逃さない－測定技術と観測網の構築－	市川有二郎、佐坂公規
68	2025.12. 4	第22回BNCシンポジウム (東洋大学)	土壌からの反応性窒素の放出：放出フラックスの試験的な調査	高橋綾香、髙野良太、坂本祐誠、井坂和一、村田浩太郎、反町篤行
69	2025.12. 4	第22回BNCシンポジウム (東洋大学)	林床におけるアンモニアの交換フラックス観測(4)：フラックスの季節変動	佐々木寛大、増田裕季、村田浩太郎、市川有二郎、反町篤行
70	2025.12. 4	第22回BNCシンポジウム (東洋大学)	タイ熱帯乾燥林における土壌からの反応性窒素の放出フラックス測定	髙野良太、増田裕季、佐々木寛大、徐懋、松田和秀、佐瀬裕之、P. Chanonmuang、村田浩太郎、反町篤行

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
71	2025.12.11	(株)エービー・サイエックスウェビナー(オンライン開催)	LC/QTOFMSによるサスペクトおよびノンターゲットスクリーニング～環境異変時の原因解明と呈味成分に係る分析への応用～	竹峰秀祐
72	2025.12.14	Mt. Lulin & Mt. Fuji Atmospheric Science Hybrid Seminar (Tokyo, Japan)	Observation studies of ice-nucleating particles and bioaerosols at Mt. Fuji	K. Murata
73	2025.12.16	令和7年度気候変動適応の研究会 研究発表会・分科会 (東京都中央区)	2025年夏季の埼玉県における暑さ指数の空間分布	大和広明
74	2026. 1.30	埼玉県環境計量協議会2025年度新春講演会・研究発表会 (さいたま市)	プラスチック試料中の中鎖塩素化パラフィンの分析方法について	長谷川知草、金井佑生、佐藤亮平、加藤吉紀、竹峰秀祐
75	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	空気中をただよう磁性を持つ粒子～自動車と鉄道から発生する磁性粒子の解明～	米持真一
76	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	埼玉県における気候変動適応策の社会実装	嶋田知英
77	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	水害リスクを最小化する！都市防災における気象予測技術の開発	河野なつ美
78	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	地球温暖化により日本の気圧配置と極端気象の発生確率がどう変わるかを知る	山上晃央
79	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	夏の大気を詳しく調査！～GC-MSで探る揮発性有機化合物(VOC)の観測～	佐坂公規
80	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	排出が増加する地球温暖化物質HFCsを見逃さない～埼玉県内で初めての大気観測～	市川有二郎
81	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	汚染から収益へ～植物修復技術が拓く土壌資源の保全と持続的利用への挑戦～	王効挙
82	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	植物保護のための光化学オキシダント環境基準の提案～水稲の収量に対するオゾンのクリティカルレベルの検討～	米倉哲志
83	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	田植えのタイミングが生き物を変える！	安野翔
84	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	使用済みリチウム蓄電池の放電処理～中学校で習った水の電気分解を使ってます～	川嵜幹生
85	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	ごみ埋立地の後始末～ハイテクに頼らない水処理をめざす～	長谷隆仁

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
86	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	SDGsから考えるプラスチック資源循環	鈴木和将
87	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	ダイオキシン類一斉測定の試み	蓑毛康太郎
88	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	難分解性化学物質：シリコーン化合物の環境評価	堀井勇一
89	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	137Csを指標とした燃焼由来のダイオキシン類における再浮遊量の評価	落合祐介
90	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	河川中の金属の形態別分析法の開発～生物が使える金属と使えない金属⁉ ～	北島卓磨
91	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	水を調べると魚がわかる？～環境DNAで広がる生態調査の未来～	木持謙
92	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	細菌の力で温暖化対策！～アナモックス反応を利用した排水処理～	見島伊織
93	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	水の中の微生物は何をしているのか？～微生物は川の汚れをきれいにしている！～	渡邊圭司
94	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	微生物に着目した画期的な土壌汚染対策！！～アルカリ材を用いた低コスト型土壌汚染対策技術の開発～	石山高
95	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	地中熱利用の実証試験と農業への適用～埼玉県でも使える再エネ熱！～	濱元栄起
96	2026. 2. 2	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	身近にあった井戸のお陰で助かった～令和６年能登半島地震被災地の声～	柿本貴志
97	2026. 2. 7	第19回伊豆沼・内沼研究集会(栗原市)	伊豆沼・内沼におけるハス群落分布の衛星画像解析（予報）	安野翔、速水裕樹、白鳥晃、藤本泰文、嶋田哲郎、宇野裕美
98	2026. 2.14	川の再生交流会2026（さいたま市）	川の感動♥体験 in 東松山－水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及－	田中仁志
99	2026. 2.14	川の再生交流会2026（さいたま市）	見えない魚を「水」から探る－科学と地域がつくる河川の未来－	木持謙
100	2026. 2.14	川の再生交流会2026（さいたま市）	埼玉県環境科学国際センター水環境担当の活動紹介	見島伊織
101	2026. 2.14	川の再生交流会2026（さいたま市）	沿岸環境・生態系デジタルツインに関するプロジェクト研究の紹介	見島伊織
102	2026. 2.14	川の再生交流会2026（さいたま市）	身近な水資源をまもることの重要性について－断水時の生活用水確保の視点より－	柿本貴志

	期　　日	発　表　会　の　名　称	発　表　テ　ー　マ	発表者及び共同研究者
103	2026. 2.17	断水時の水問題を考えるセミナー（第３回）大規模災害時の断水に備える－民間井戸を活用した生活用水確保の実践と課題－（オンライン開催）	石川県七尾市における断水時の運搬給水とボトル水提供	柿本貴志
104	2026. 2.19	第41回全国環境研究所交流シンポジウム（ハイブリッド開催、つくば市）	WBGT機器の比較観測結果	大和広明、大野卓夫 浜田崇、岡和孝
105	2026. 2.20	第64回日本環境化学講演会 (東京都千代田区)	地方環境研究所としてのダイオキシン分析の取り組みおよびAPGC法によるダイオキシン分析について	竹峰秀祐
106	2026. 2.20	第27回埼玉県健康福祉研究発表会(さいたま市)	令和６年能登半島地震後の石川県七尾市における応急給水と地下水活用	柿本貴志
107	2026. 2.25 -3.11	東洋大学工業技術研究所2025年度研究発表会(オンライン開催)	都市近郊の森林における有機エアロゾルのフラックス測定(2)－春季から秋季にかけての季節変動－	吉田雄仁、増田裕季、 松田和秀、村田浩太郎、 市川有二郎、反町篤行
108	2026. 2.25 -3.11	東洋大学工業技術研究所2025年度研究発表会(オンライン開催)	大気エアロゾルの磁気特性(6)－富士山頂試料の磁気特性－	上野千嘉、米持真一、 村田浩太郎、大河内博、 反町篤行
109	2026. 2.25 -3.11	東洋大学工業技術研究所2025年度研究発表会(オンライン開催)	林床におけるアンモニアの交換フラックス観測(5)－屋上濃度観測を用いた林床フラックスの解釈－	佐々木寛大、増田裕季、 村田浩太郎、 市川有二郎、反町篤行
110	2026. 3. 5	第5回Future Earth 日本サミット（名古屋大学）	令和６年能登半島地震による断水下の給水活動と市民よる井戸活用	柿本貴志、遠藤崇浩、 谷口真人
111	2026. 3.19	令和7年度大気環境学会関東支部大気沈着部会講演会 (東京都千代田区)	長期多高度タワー観測とドローン統合観測による都市近郊森林BVOCの空間変動性評価とMEGANモデル検証	市川有二郎
112	2026. 3.22	第19回成果報告会　－富士山測候所で行った活動の成果－ (東京都新宿区)	富士山頂で「雲のタネ」を追う：氷晶核とバイオエアロゾル観測(2025)	村田浩太郎、渡辺幸一、 鴨川仁、大河内博、 米持真一
113	2026. 3.22	第19回成果報告会　－富士山測候所で行った活動の成果－ (東京都新宿区)	富士山頂に浮遊している粒子の特徴：磁性について	反町篤行、上野千嘉、 米持真一、村田浩太郎、 大河内博

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.4.6 報告書

（3件）

	報　告　書　名	発　行　者	執　筆　担　当	執　筆　者	発行年
1	2025年度埼玉県温室効果ガス排出量算定報告書（2023年度算定値）	埼玉県環境部温暖化対策課 環境科学国際センター	全章	嶋田知英 大和広明 河野なつ美 山上晃央	2026
2	地球温暖化対策実行計画推進事業埼玉県温度実態調査報告書（令和6年度）	埼玉県環境部温暖化対策課 環境科学国際センター	全章	大和広明	2026

	報　告　書　名	発　行　者	執　筆　担　当	執　筆　者	発行年
3	令和6年度微小粒子状物質・光化学オキシダント合同調査報告書 関東甲信静におけるPM2.5のキャラクタリゼーション（第17報） 関東甲信静における光化学オキシダントのキャラクタリゼーション（第4報） （令和6年度調査結果）	関東地方大気環境対策推進連絡会 微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議	II 光化学オキシダント(Ox)調査 3 年間の光化学オキシダント高濃度発生状況 3.2 高濃度事例解析	長谷川就一 村田浩太郎	2026

（注）当センターの職員には下線を付した。

（注）抄録は、７．４．４　報告書抄録　を参照。

5.4.7 書籍

（1件）

	書　籍　名	出　版　社	執　筆　分　担	執　筆　者	発行年
1	奄美の生物多様性と人々の暮らし	南方新社	13章 奄美群島の哺乳類・鳥類	藤田志歩 牧貴大 榮村奈緒子	2026

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.4.8 センター報

（1件）

	種　別	課　題　名	執　筆　者	掲　載　号
1	資料	カメラトラップ調査で観察した埼玉県環境科学国際センター生態園の中型哺乳類相	角田裕志	第25号、pp.86–90 (2025)

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.5 講師・客員研究員等

5.5.1 大学非常勤講師

（7件）

	期　日	講　義　内　容	講義場所	氏　名
1	2025. 8.25	創価大学大学院理工学研究科非常勤講師 「特別講義」	創価大学	今井章雄
2	2025年度 前期	早稲田大学創造理工学部非常勤講師 「環境研究の実践と国際協力」	早稲田大学	米持真一
3	2025年度 第4ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授（連携大学院） 「環境分析化学特論」	埼玉大学	大塚宜寿
4	2025年度 第3･4ターム	埼玉大学工学部非常勤講師 「環境保全マネジメント」	埼玉大学	池田和弘 柿本貴志
5	2025年度 第2ターム 第3･4ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授（連携大学院） 「水環境工学特論」 「水環境工学特論」	埼玉大学	見島伊織
6	2025.11.27	群馬大学非常勤講師「土木環境特別講義」	群馬大学	見島伊織
7	2025年度 第3ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授（連携大学院） 「地圏環境学特論」	埼玉大学	濱元栄起

5.5.2 客員研究員

（9件）

	相手機関	委嘱期間	氏　名
1	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	今井章雄
2	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	河野なつ美
3	東京大学先端科学技術研究センター	2025. 4. 1～2026. 3.31	河野なつ美
4	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	長森正尚
5	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	川嵜幹生
6	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	長谷隆仁
7	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	磯部友護
8	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	堀井勇一
9	国立研究開発法人 国立環境研究所	2025. 4. 1～2026. 3.31	渡邊圭司

5.5.3 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

（64件）

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏　名
1	日本学術会議連携会員	日本学術会議	2023.10. 2～2029. 9.30	植松光夫
2	日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	日本学術会議	2023.10. 2～2026. 9.30	植松光夫
3	日本学術会議地球惑星科学委員会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
4	日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
5	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE･WCRP合同分科会	日本学術会議	2023.10.29～2026. 9.30	植松光夫
6	日本学術会議地球惑星科学委員会SCOR分科会	日本学術会議	2023.10. 1～2026. 9.30	植松光夫

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏　名
7	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会IGAC小委員会	日本学術会議	2024. 1.25～2026. 9.30	植松光夫
8	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会SOLAS小委員会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
9	日本学術会議地球惑星科学委員会SCOR分科会SIMSEA小委員会	日本学術会議	2024. 1.25～2026. 9.30	植松光夫
10	環境研究推進委員会	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
11	環境研究推進委員会(統合部会)	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
12	環境研究推進委員会(気候変動部会)	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
13	地球環境保全試験研究費評価委員会	環境省地球環境局	2024. 4.26～2026. 3.31	植松光夫
14	環境研究推進委員会(S-18戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
15	環境研究推進委員会(S-20戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
16	環境研究推進委員会(S-22戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
17	鴻巣市環境審議会	鴻巣市	2024. 4. 1～2025.10.26	今井章雄
18	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2024. 5.20～2025 .7.31 2025. 8. 1～2027 .7.31	今井章雄
19	琵琶湖における水質管理手法検討会	環境省	2025. 6.10～2026. 3.17	今井章雄
20	今後の湖沼管理の課題に関する勉強会	環境省水・大気環境局	2025.10.10～2026. 3.17	今井章雄
21	越谷市まちの整備に関する審議会	越谷市	2023.10. 1～2025. 9.30	八戸昭一
22	春日部市環境審議会	春日部市	2024. 5. 1～2026. 4.30	八戸昭一
23	加須市環境審議会	加須市	2024.10.10～2026.10. 9	八戸昭一
24	越谷市環境審議会	越谷市	2025. 7. 1～2027. 6.30	大澤千恵子
25	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2023. 8. 1～2025. 7.31 2025. 8. 1～2027. 7.31	茂木守
26	久喜市環境審議会	久喜市	2023. 3.23～2025. 3.22 2025. 3.24～2027. 3.23	三輪誠
27	越谷市まちの整備に関する審議会	越谷市	2025.10. 1～2027. 9.30	米持真一
28	微小粒子状物質濃度測定器等価性評価試験等検討会	環境省水・大気環境局	2025.11.26～2026. 3.27	米持真一
29	蕨市環境審議会	蕨市	2024.11. 1～2026.10.31	大塚宜寿
30	令和７年度POPsモニタリング検討会分析法分科会	環境省環境保健部	2025.12. 2～2026. 3.30	大塚宜寿
31	科学技術・学術審議会地球観測推進部会(第10期)	文部科学省研究開発局	2023. 7.10～2025. 7. 9	嶋田知英
32	行田市環境審議会	行田市	2024.12.12～2026.12.21	嶋田知英
33	越谷市環境審議会	越谷市	2023. 7. 1～2025. 6.30	嶋田知英
34	中川のサギ類コロニー保全対策検討有識者会議	国土交通省江戸川河川事務所	2016. 1.25～2025.12. 5	嶋田知英
35	中川のサギ類コロニー保全対策方針フォローアップ会議	国土交通省江戸川河川事務所	2026. 1.22～2028. 3.31	嶋田知英

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏　名
36	黒浜貝塚保存活用委員会	蓮田市教育委員会	2024. 3.27～2025.11.30	嶋田知英
37	入間市環境審議会	入間市	2023.10. 1～2025. 9.30	嶋田知英
38	幸手市環境審議会	幸手市	2024. 6. 7～2026. 6. 6	嶋田知英
39	鶴ヶ島市環境審議会	鶴ヶ島市	2024. 7. 1～2026. 6.30	大和広明
40	加須市ゼロカーボン推進協議会	加須市	2024.11. 7~2026.11. 6	大和広明
41	入間市環境審議会	入間市	2025.10. 1～2027. 9.30	大和広明
42	羽生市温暖化対策実行計画策定委員会	羽生市	2025.10. 1～2026. 3.31	河野なつ美
43	上里町環境審議会	上里町	2025.11.17～2027.11.16	河野なつ美
44	環境汚染事案への対応に関する検討会	環境省水･大気環境局	2025. 7. 4～2026. 3.31	長谷川就一
45	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2025. 8. 1～2027. 7.31	安野翔
46	春日部市ごみ減量化・資源化等推進審議会	春日部市	2024. 5. 1～2026. 4.30	長森正尚
47	施設整備基本構想検討委員会	蕨戸田衛生センター組合	2025. 5.15～2026. 3.31	長森正尚
48	越谷市廃棄物減量等推進審議会	越谷市	2023.11.30～2025.11.29 2025.12. 1～2027.11.30	長森正尚
49	加須市廃棄物減量等推進審議会	加須市	2025.12.31～2027.12. 2	川嵜幹生
50	上尾伊奈資源循環組合ごみ広域処理施設建設検討委員会	上尾伊奈資源循環組合	2024. 5. 2～2026. 3.31	川嵜幹生
51	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2025. 8. 1～2027. 7.31	川嵜幹生
52	東松山市新ごみ処理施設検討委員会	東松山市	2024. 6.26～2026. 3.31	磯部友護
53	環境研究総合推進費(3G-2201)「環境中PFAS の包括的評価を目指した総PFAS スクリーニング測定技術の開発」アドバイザリーボード	(国研)産業技術総合研究所	2024. 4. 1～2027. 3.31	堀井勇一
54	令和7年度化学物質環境実態調査結果精査等検討会	環境省大臣官房環境保健部	2025. 6.10～2026. 3.31	堀井勇一
55	ISO/TC147国際標準化対応委員会及びISO/TC147/SC国内審議委員会	経済産業省イノベーション・環境局	2025. 6. 9～2028. 3.31	堀井勇一
56	化学物質環境実態調査分析法開発等検討会議系統別部会（第二部会）	環境省大臣官房環境保健部	2025.12. 2～2026. 3.27	竹峰秀祐
57	化学物質環境実態調査スクリーニング分析法等検討会	環境省大臣官房環境保健部	2025.12.16～2026. 3.27	竹峰秀祐
58	令和7年度包括的計測法国際標準化調査研究会	経済産業省イノベーション・環境局	2025. 8.14～2026. 2.27	竹峰秀祐
59	2025年度大気モニタリングデータ解析ワーキンググループ	環境省水･大気環境局	2025.10. 9～2026. 3.31	松本利恵
60	国内データ検証グループ	環境省水･大気環境局	2025. 9. 8～2026. 3.31	松本利恵
61	川口市廃棄物処理施設専門委員会	川口市	2024.10.23～2026.10.22	松本利恵
62	NEDO技術委員（研究評価委員会「再生可能エネルギー熱利用にかかるコスト削減技術開発」(終了時評価)分科会）	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	2024. 4.25～2026. 3.31	濱元栄起
63	災害時における地下水等活用推進に向けた有識者会議	内閣官房水循環政策本部	2025. 9. 8～2026. 3.31	柿本貴志

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏　名
64	JIS K 0450-70-10 改正原案作成委員会	経済産業省産業技術環境局	2025. 6.30～2026. 3.31	髙沢麻里

5.5.4 研修会・講演会等の講師

（157件）

	期　日	名　称	開催場所	氏　名
1	2025. 4.24	蕨市エスディジーズを広める会 定例会 「地球温暖化（影響と対策）」	蕨市	嶋田知英
2	2025. 5. 7	熊谷市中央公民館 自然と環境の講座 「SDGsとごみ問題」	熊谷市	鈴木和将
3	2025. 5.10	令和7年度川柳生き物大調査 「Sakura Lakeにはどんな生き物がいるか」	越谷市	田中仁志
4	2025. 5.13	令和7年度異常水質事故に係る研修会	環境科学国際センター	田中仁志
5	2025. 5.15	蕨市エスディジーズを広める会 定例会 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？（気候変動適応について）」	蕨市	河野なつ美
6	2025. 5.16	令和7年度市町村騒音・振動・悪臭担当職員研修会 「振動測定解説」	オンライン	濱元栄起
7	2025. 5.17	彩の国環境大学修了生の会 第28回総会 「災害時における井戸水の有効利用」	さいたま市	柿本貴志
8	2025. 5.18	日本両生類研究会 第26回両生類自然史フォーラム公開シンポジウム 「水田生態系における生物多様性」	東松山市	安野翔
9	2025. 5.19	令和7年度災害時石綿モニタリングに関する訓練 「R6年度測定の総括と今後の展望」「モニタリング訓練」	環境科学国際センター	佐坂公規 村田浩太郎
10	2025. 5.23	埼玉県健康長寿課 熱中症アンバサダー研修 「埼玉県内における熱中症リスクの地域性とその日変化」	オンライン	大和広明
11	2025. 5.24	大利根地域コミュニティ協議会 総会 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	加須市	三輪誠
12	2025. 5.24	日本経営士会東京支部TAMAマネージメント研究会研修会 「地球温暖化（影響と対策）」	オンライン	嶋田知英
13	2025. 5.24	羽生市立川俣小学校 稲子集会所子ども学習会 「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	羽生市立川俣小学校	田中仁志
14	2025. 5.30	中央環境管理事務所 クビアカツヤカミキリ対策研修会	鴻巣市	三輪誠 伊東奈緒美
15	2025. 6. 1	浦和東ロータリークラブ 見沼たんぼで自然を学ぼう 「水田生態系における生物多様性」	さいたま市	安野翔
16	2025. 6. 3	県立杉戸高等学校 理科部河川調査研究指導 「埼玉の水環境の現状と保全」	県立杉戸高等学校	木持謙
17	2025. 6. 4	さいたま市環境局環境共生部環境対策課 クビアカツヤカミキリ早期発見・防除研修 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	さいたま市	三輪誠
18	2025. 6. 7	飯能市市民活動センター 環境フェスタ2025 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	飯能市	田中仁志
19	2025. 6. 7	飯能市市民活動センター 環境フェスタ2025「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	飯能市	田中仁志

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
20	2025. 6. 9	県立伊奈学園総合高等学校 大学等出張講義 「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	県立伊奈学園総合高等学校	田中仁志
21	2025. 6.12	直実市民大学 共通学習 「埼玉・熊谷の水環境と郷土の宝ムサシトミヨ」	熊谷市	木持謙
22	2025. 6.13	鶴ヶ島市立中央図書館 環境教育講座 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	鶴ヶ島市	米倉哲志
23	2025. 6.13	いきものサイエンスカフェ 「コウモリの声を聴いてみよう」	オンライン	牧貴大
24	2025.6.14	(特非)環境ネットワーク埼玉 令和7年度通常総会・講演会 「『脱炭素の切り札！”再生可能エネルギー熱”』―地中熱や太陽熱の研究の取り組み―」	さいたま市	濱元栄起
25	2025. 6.15	ふっさ環境市民会議 環境学習講座 「クビアカツヤカミキリの生態と防除について」	福生市	三輪誠
26	2025. 6.19	県立伊奈学園中学校 総合的な学習の時間 選択「科学」 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？」	県立伊奈学園中学校	河野なつ美
27	2025. 6.22	日高市立図書館 一般向け文化講座 「埼玉県における希少生物の現状」	日高市	安野翔
28	2025. 6.23	上尾市立今泉小学校 「SDGsとごみ問題」	上尾市立今泉小学校	鈴木和将
29	2025. 6.24	さいたま市立文蔵公民館 令和7年度あかつき学級前期 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	さいたま市	米倉哲志
30	2025. 6.25	開智学園(総合部) セカンダリー・授業 「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	開智学園	田中仁志
31	2025. 6.27	東京リンテック加工(株) EMS生物多様性活動 「地球温暖化（影響と対策）」	蕨市	嶋田知英
32	2025. 6.27	明星大学 特別講義 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？（気候変動適応について）」	明星大学	河野なつ美
33	2025. 6.28	彩の国環境大学修了生の会 化学物質部会定例会 「埼玉県の大気環境」	さいたま市	市川有二郎
34	2025. 6.29	(特非)本庄市げんきの郷本泉 里山の外来昆虫 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	本庄市	三輪誠
35	2025. 7. 2	鳩山町役場 地域創生環境課 クビアカツヤカミキリ防除対策について 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	鳩山町	三輪誠
36	2025. 7. 2	令和7年度VOC実務者研修 「埼玉県内で観測された大気中VOCの実態と光化学大気汚染対策」「現場でのVOC測定の方法と実際」	環境科学国際センター	市川有二郎 村田浩太郎
37	2025. 7. 5	久喜市市民大学 1年生講座 「地球温暖化（影響と対策）」	久喜市	大和広明
38	2025. 7. 8	埼玉県地域気候変動適応センター設置市町村会議 「埼玉県気候変動適応センターの取組」	オンライン	大和広明
39	2025. 7. 8	HANNOアフタースクール「理科実験」 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	飯能市	田中仁志
40	2025. 7.10	さいたま市立美園公民館 しらさぎ大学（前期） 「地球温暖化（影響と対策）」	さいたま市	山上晃央
41	2025. 7.11	和光市立北原小学校 小学5年生通常授業 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	和光市立北原小学校	田中仁志
42	2025. 7.17	行田市・水資源機構 「クビアカツヤカミキリ防除研修会」	行田市	三輪誠 牧貴大

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
43	2025. 7.17	埼玉地中熱エネルギー推進機構総会 「『脱炭素の切り札！“再生可能エネルギー熱”』―地中熱・太陽熱・災害時協力井戸の研究の取り組み―」	川越市	濱元栄起 柿本貴志
44	2025. 7.20	2025夏休み特別企画 「自由研究なんでも相談室－研究員がキミの自由研究を全力でサポートします－」	環境科学国際センター	見島伊織
45	2025. 7.21	2025夏休み特別企画「サイエンスショー －196℃の世界」	環境科学国際センター	佐坂公規 秋山美智代
46	2024. 7. 25	2025夏休み特別企画 「化学実験！不思議なぷよ玉」	環境科学国際センター	蓑毛康太郎 堀井勇一 北島卓磨 谷脇夕希
47	2024. 7. 26	2025夏休み特別企画 「夢を見つける！リアル体験教室「水質を分析する環境博士になりたい」」	環境科学国際センター	見島伊織 宮﨑実穂
48	2025. 7.29	(一財)日本造園修景協会埼玉支部 修景サロン 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	さいたま市	三輪誠
49	2025. 7. 29	2025夏休み特別企画 「体験！大気汚染を目で見てみよう！」	環境科学国際センター	長谷川就一
50	2025. 7.30	EIKOデジタル・クリエイティブ高等学校浦和校 公開講座「埼玉県における希少生物の現状」	さいたま市	安野翔
51	2025. 7.30 - 7.31	東北工業大学 夏休みの自由研究支援 「夏休みの自由研究支援 広瀬川で楽しもう 川の生き物しらべとアクセサリーづくり」	仙台市	田中仁志 木持謙
52	2025. 7.31	加須市教育研究会環境教育部会 環境教育主任研究協議会 「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	環境科学国際センター	川嵜幹生
53	2025. 8. 1	2025夏休み特別企画 「体験！雲の上の実験室～富士山頂では何が起きる？」	環境科学国際センター	米持真一 村田浩太郎
54	2025. 8. 1	加須市立三俣コミュニティセンター 夏休みこども講座 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	加須市	田中仁志
55	2025. 8. 2	2025夏休み特別企画 「サイタマの猛暑を分析！「暑さ指数計」で学ぶ夏の熱中症対策」	環境科学国際センター	大和広明
56	2025. 8. 4	秩父環境管理事務所 クビアカツヤカミキリ対策研修会	秩父市、皆野町	三輪誠 牧貴大
57	2025. 8. 4	令和7年度大気規制に係る測定方法等研修会 「VOC測定方法の概要」「石綿測定方法の概要」「ばい煙測定方法の概要、留意点及び測定データの読み方」「ダイオキシン類の性質・分析の基礎と測定結果の見かた」	環境科学国際センター	佐坂公規 松本利恵 蓑毛康太郎
58	2025. 8. 4	災害時石綿試料採取訓練 「試料採取の概要」「実技訓練」	環境科学国際センター	佐坂公規 村田浩太郎
59	2025. 8. 5	空堀川水環境確保対策会 4市合同 親と子の環境教室 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	環境科学国際センター	田中仁志
60	2025. 8. 5	令和7年度第3回土壌汚染関係専門研修 「地下水の分析結果の評価方法」	オンライン	髙沢麻里
61	2025. 8. 6	2025夏休み特別企画 「川の水質ミステリー！生き物カードで解き明かせ！」	環境科学国際センター	田中仁志
62	2025. 8. 6	さいたま市環境対策課 さいたま市環境研修会 「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	さいたま市	川嵜幹生
63	2025. 8. 7	浦和東ロータリークラブ 例会 「水田生態系における生物多様性」	さいたま市	安野翔

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
64	2025. 8. 7	羽生市役所環境課 令和7年度クビアカツヤカミキリ防除対策連絡会 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	羽生市	三輪誠
65	2025. 8. 8	環境部 石綿目視判定研修会	環境科学国際センター	川嵜幹生
66	2025. 8. 9	2025夏休み特別企画「土壌の性質を学ぼう－土を使った簡易浄化装置の作成－」	環境科学国際センター	石山高
67	2025. 8.10	2025夏休み特別企画 「ごみの山から出るガスの正体を探れ！」	環境科学国際センター	長森正尚
68	2025. 8.11	2025夏休み特別企画 「チョウとカブトムシの昆虫標本を作ってみよう」	環境科学国際センター	嶋田知英
69	2025. 8.15	2025夏休み特別企画 「魔法のスノードーム作り：溶けない結晶で温暖化の秘密を知ろう」	環境科学国際センター	河野なつ美
70	2025. 8.17	彩の国環境大学公開講座 「彩の国でCN、CE、NPを目指す」	環境科学国際センター	植松光夫
71	2025. 8.23	彩の国環境大学修了生の会 化学物質部会定例会 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	さいたま市	米倉哲志
72	2025. 8.28	加須市樋遣川コミュニティセンター 高齢者学級 「地球温暖化（影響と対策）」	加須市	嶋田知英
73	2025. 8.30	彩の国環境大学基礎課程 「私たちのくらしと廃棄物～ごみ処理の変遷と法整備～」	環境科学国際センター	長森正尚
74	2025. 9. 3	第23回環境問題の現況と将来を展望するセミナー 「熱中症予防に向けた埼玉県の暑さ指数の実態と活用」	さいたま市	大和広明
75	2025. 9. 3	入間市立豊岡小学校 総合的な学習の時間「守れ！地球！」 「よくわかる！埼玉の空気のむかしといま」	入間市立豊岡小学校	佐坂公規
76	2025. 9. 3	環境省 事故等による環境汚染事案への対応に係る講習会 「油流出事故の発生源調査への簡易識別分析の適用とその有用性」	オンライン	柿本貴志
77	2025. 9. 4	国際連携セミナー（CESS-吉林省農業科学院） 「地球温暖化及びオゾンが植物に及ぼす影響」	環境科学国際センター	米倉哲志 王効挙
78	2025. 9. 6	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉の大気環境を知る」	環境科学国際センター	佐坂公規
79	2025. 9. 6	彩の国環境大学基礎課程 「大規模断水と住民対応～令和６年能登半島地震被災地における水利用の実態と課題～」	環境科学国際センター	柿本貴志
80	2025. 9. 9	行田市立南河原小学校 学力向上学級 「土壌について学ぼう－土壌と私たちの生活とのつながり－」	行田市立南河原小学校	石山高
81	2025. 9.10	入間市立豊岡小学校 総合的な学習の時間「守れ！地球！」 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	入間市立豊岡小学校	田中仁志
82	2025. 9.11	東松山市きらめき市民大学 教養科目講座 「埼玉県の地下水と湧水－身近な水源を知っていますか？－」	東松山市	石山高
83	2025. 9.13	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県における気候変動の実態と2つの対策」	環境科学国際センター	嶋田知英
84	2025. 9.13	彩の国環境大学基礎課程 「化学物質と私たちのくらし」	環境科学国際センター	堀井勇一
85	2025. 9.17	入間市立豊岡小学校 総合的な学習の時間「守れ！地球！」 「SDGsとごみ問題」	入間市立豊岡小学校	鈴木和将
86	2025. 9.18	2025年度日本地球化学会第72回年会 基調講演 「地球温暖化への空と海、そして人のふるまい」	東北大学	植松光夫

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
87	2025. 9.18	加須市不動岡コミュニティセンター いきいきスクール・不動岡 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	加須市	田中仁志
88	2025. 9.19	寄居町折原地区環境対策協議会 視察研修 「地球温暖化（影響と対策）」	環境科学国際センター	嶋田知英
89	2025. 9.20	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の自然環境を支える土壌環境とその保全」	環境科学国際センター	王効挙
90	2024. 9.20	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉の水環境 －河川の水質と私たちの生活－」	環境科学国際センター	池田和弘
91	2025. 9.22	東松山環境管理事務所 クビアカツヤカミキリ対策研修会	東松山市	三輪誠 牧貴大
92	2025. 9.25	県立伊奈学園中学校 総合的な学習の時間 選択「科学」 「土壌汚染と植物による修復」	県立伊奈学園中学校	王効挙
93	2025. 9.25	秩父環境管理事務所 石綿目視判定研修会	秩父市	川嵜幹生
94	2025. 9.25	加須市立大越コミュニティセンター ふれあいセミナー 「地中熱エネルギーの利用」	加須市	濱元栄起
95	2025. 9.26	中央環境管理事務所 クビアカツヤカミキリ対策研修会	さいたま市	三輪誠 牧貴大
96	2025. 9.27	秩父市環境市民会議 環境セミナー 「埼玉の水環境の現状と保全」	秩父市	田中仁志
97	2025. 9.28	新しき村生きもの調査報告会－米作りと生きもの－ 「水田生態系における生物多様性」	毛呂山町	安野翔
98	2025.10.15	国際連携セミナー（CESS-中国寧波城市職業技術学院） 「クビアカツヤカミキリの被害・防除」「地球温暖化及びオゾンが植物に及ぼす影響」「農村地域の環境保全」	環境科学国際センター	三輪誠 米倉哲志 王効挙
99	2025.10.16	東松山市きらめき市民大学 教養科目講座 「知っておきたいPM2.5の話～意外な実態と原因を解説します～」	東松山市	長谷川就一
100	2025.10.19	埼玉県気候変動適応センター高校生環境ワークショップ 「暑さに関する指数とは？暑い時に利用できる涼み処」	久喜市	河野なつ美
101	2025.10.22	上尾市上平公民館 公民館講座（一般教養・自然科学） 「埼玉県における希少生物の現状」	上尾市	安野翔
102	2025.10.24	鳩山町地域創生環境課 鳩山町脱炭素を考える意見交換会 「地球温暖化（影響と対策）」	鳩山町	嶋田知英
103	2025.10.24	アナリティクイエナ・ユーザーミーティング 「誘導結合プラズマ発光分析装置（ICP/AES）の使用状況について」	横浜市	石山高
104	2025.11. 4 -11.30	令和7年度公害防止主任者資格認定講習（大気関係） 「測定技術」「燃焼・ばい煙防止技術」	講義動画配信	長谷川就一
105	2025.11. 4 -11. 30	令和7年度公害防止主任者資格認定講習（ダイオキシン類関係）「測定技術」	講義動画配信	竹峰秀祐
106	2025.11. 4 -11. 30	令和7年度公害防止主任者資格認定講習（水質関係） 「汚水等処理技術一般」「測定技術」	講義動画配信	池田和弘 見島伊織
107	2025.11. 4 -11. 30	令和7年度公害防止主任者資格認定講習（騒音・振動関係） 「振動の防止技術」	講義動画配信	濱元栄起
108	2025.11.13	中国農業科学院来所訪問特別講演会 「地球温暖化及びオゾンが植物に及ぼす影響」	環境科学国際センター	米倉哲志
109	2025.11.15	KAZO環境フェスタ2025 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	加須市	田中仁志

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
110	2025.11.15	KAZO環境フェスタ2025 「富士山頂で大気を調べる」	加須市	村田浩太郎
111	2025.11.15	KAZO環境フェスタ2025 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	加須市	三輪誠
112	2025.11.18	埼玉県土木施工管理技士会 土木の日記念講演会 「地球温暖化（影響と対策）」	蓮田市	嶋田知英
113	2025.11.20	令和7年度第4回土壌汚染関係専門研修 「地下水流動の評価」「自然由来地下水汚染の判別方法」「ボーリング柱状図の利用の仕方」「検知管を用いた簡易VOC測定」「井戸深度、地下水位の測定」「地下水採水、地下水の性状把握と簡易水質測定」	環境科学国際センター	石山高 濱元栄起 柿本貴志
114	2025.11.22	彩の国環境大学公開講座 「湖の水質をコントロールするものPart IIー仕組みと研究のおはなし」	環境科学国際センター	今井章雄
115	2025.11.26	三芳町環境保全協力会 環境関係講座 「生物多様性とその保全」	三芳町	米倉哲志
116	2025.12. 1 -2026. 1.15	第55回質量分析講習会 実践(D)コース「質量分析の実践-環境分析・食品分析」 「環境分析におけるMS」	講義動画配信	竹峰秀祐
117	2025.12.4	加須市立騎西中学校 総合的な学習の時間 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	加須市立騎西中学校	田中仁志
118	2025.12.4	加須市立騎西中学校 総合的な学習の時間 「SDGsとごみ問題」	加須市立騎西中学校	鈴木和将
119	2025.12.5	春日部市立武里小学校 小学4年生社会科の授業 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	春日部市立武里小学校	田中仁志
120	2025.12.10	入間看護専門学校 授業 「私たちをとりまく化学物質」	入間看護専門学校	堀井勇一
121	2025.12.13	高柳さくらの会 クビアカツヤカミキリ駆除について 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	本庄市	三輪誠
122	2025.12.14	第７回SDGsエコフォーラムin埼玉 「地球温暖化時代における適応策～埼玉県の気象特性から～」「サーキュラーエコノミーの基礎知識と現状」	さいたま市	大和広明 川嵜幹生
123	2025.12.18	スポーツチームと連携した脱炭素アクション推進事業 浦和レッズ 脱炭素に関する勉強会	さいたま市	嶋田知英
124	2025.12.18	吉川市立東中学校 埼玉県の環境について深く考えよう 「埼玉の水環境の現状と保全」	吉川市立東中学校	田中仁志
125	2025.12.20	行田市中央公民館 実用講座 「水生生物カードゲームで深める川の環境学習」	行田市	田中仁志
126	2025.12.22	埼玉県温暖化対策課 令和7年度第3回カーボンニュートラル基礎・計画策定ワークショップ 「市町村GHGの推計手法について」	オンライン	嶋田知英
127	2025.12.25	コミュニティハウス三俣 「私たちをとりまく化学物質」	加須市	蓑毛康太郎 大塚宜寿 落合祐介
128	2026. 1. 9	(福)八潮市社会福祉協議会 八潮市寿大学校 「知っておきたいPM2.5の話-意外な実態と原因を解説します-」	八潮市	長谷川就一
129	2026. 1.10	彩の国環境大学修了生の会 化学物質部会定例会 「SDGsとごみ問題」	さいたま市	鈴木和将
130	2026. 1.14	日本工業大学 環境特別講演会 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？（気候変動適応について）」	宮代町	河野なつ美

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
131	2026. 1.16	さいたま市水環境ネットワーク 令和７年度講演会 「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	さいたま市	田中仁志
132	2026. 1.17	(特非)富士見市民大学 環境講座VOL. 1 自然環境編 「埼玉の湧水と名水－身近な水源を知っていますか？－」	富士見市	石山高
133	2026. 1.21	越生町 クビアカツヤカミキリ対策本部会議 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	越生町	三輪誠
134	2026. 1.21	埼玉県水道水質管理計画研修部会 令和7年度水道研修会 「埼玉県における地下水質監視体制と地下水汚染の現状について」	オンライン	柿本貴志
135	2026. 1.27	環境省環境調査研修所 大気分析研修 「大気粉じん中の重金属の分析について」 「大気粉じん試料のサンプリング法」	所沢市	米持真一 長谷川就一
136	2026. 1.28	(独)水資源機構総合技術センター 環境学習会 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	さいたま市	米倉哲志
137	2026. 1.30	(一社)埼玉県環境計量協議会 新春講演会・研究発表会 「地球温暖化での空と海、そして人」	さいたま市	植松光夫
138	2026. 1.30	県立伊奈学園中学校 総合的な学習の時間 選択「科学」 「知っておきたいPM2.5の話～意外な実態と原因を解説します～」	県立伊奈学園中学校	長谷川就一
139	2026. 2. 1	梅の里くらしサポートセンター クビアカツヤカミキリ対策サポーター養成講座 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	越生町	三輪誠
140	2026. 2. 2	埼玉県環境科学国際センター講演会 「暑さ指数の活用～熱中症を予防するために～」 「化学物質の環境動態～ダイオキシンはどこからやってくる？～」	さいたま市	大和広明 落合祐介
141	2026. 2. 7	桶川市環境センター周辺地区対策協議会 講演会 「廃棄物処理・処分における最終処分場の重要性」	桶川市	磯部友護
142	2026. 2. 8	坂戸市環境学館いずみ 生活環境講座 「埼玉の大気環境と植物との関わり」	坂戸市	米倉哲志
143	2026. 2.15	蓮田市環境学習館 自然環境講座 「生き物から見た水環境―水生生物を用いた水質調査法―」	蓮田市	田中仁志
144	2026. 2.17	(公財)上尾市地域振興公社 上尾市自然学習館 クビアカツヤカミキリ早期発見・防除研修 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	上尾市	三輪誠
145	2026. 2.20	サーキュラーエコノミー動静脈連携マッチングセミナー 「埼玉県での動静脈連携の取組と具体例」	宇都宮市	川嵜幹生
146	2026. 2.20	加須市くらしの会 第１回未来のための環境講座 「埼玉の湧水と名水－身近な水源を知っていますか？－」	加須市	石山高
147	2026. 2.21	埼玉県新規地球温暖化防止活動推進員研修会 「地球温暖化（影響と対策）」	さいたま市	嶋田知英
148	2026. 2.21	さいたま市ネイチャーポジティブ推進フォーラム 「埼玉県生物多様性センターの事例－現場の取り組みから考える－」	さいたま市	安野翔
149	2026. 2.27	みどり自然課 埼玉県自然公園指導員研修会 「埼玉県における希少生物の現状」	川越市	安野翔
150	2026. 2.27	上尾市環境政策課 市民向けの環境学習講座 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	上尾市	田中仁志

	期　　日	名　　称	開 催 場 所	氏　　名
151	2026. 2.28	かわごえ環境推進員協議会川鶴支部 環境セミナー 「地球温暖化（影響と対策）」	川越市	河野なつ美
152	2026. 2.28	幸手市環境課 第３回市民環境講座 「埼玉の水環境の現状と保全」	幸手市	見島伊織
153	2026. 3. 9	令和７年度環境保全懇談会・環境行政意見交換会 「暑さ指数計の取り組み紹介」	さいたま市	大和広明
154	2026. 3.19	狭山市立富士見公民館 環境講座 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	狭山市	田中仁志
155	2026. 3.22	新座市環境課 環境講座 「ごみを減らし、資源と経済をまわす」	新座市	川嵜幹生
156	2026. 3.27	早稲田大学本庄高等学院 スーパーサイエンスクラブ春休み見学会 「土壌汚染と植物による修復」	環境科学国際センター	王効挙
157	2026. 3.27	令和7年度熊谷市地球温暖化対策地域推進協議会 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	熊谷市	田中仁志

5.6 表彰等

5.6.1 表彰

一般社団法人日本環境化学会 環境化学技術賞

谷脇夕希　落合祐介　蓑毛康太郎　大塚宜寿

表彰理由

環境化学 Vol.34に掲載された論文「定期刊行物の紙中ダイオキシン類の経年変化と汚染原因」に対して授与された。本稿は、定期刊行物の余白部分を切り出し、その紙を分析することで、過去およそ半世紀にわたる紙中ダイオキシン類を調査したものである。過去の定期刊行物を試料とするユニークな試みで、紙中ダイオキシン類の濃度や汚染原因の変遷を明らかにした点が高く評価された。

全国環境研協議会 会長表彰

田中仁志

表彰理由

環境生物学分野を主とした研究活動および行政支援の功績が多数あり、環境保全の推進に対する多大な功労が高く評価された。

全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰

石山高

表彰理由

土壌・地下水分野を主とした長年にわたる研究活動及び行政・地域支援に関する功績と、地域環境保全の推進に対する多大な功労が高く評価された。

5.6.2 感謝状

第69回 生活と環境全国大会長 感謝状

茂木守

表彰理由

埼玉県に入庁後、県営の廃棄物最終処分場で浸出水処理施設を適切に維持管理し、埼玉県環境部で公共用水域の保全及び異常水質事故対策等へ貢献し、県の環境研究機関で有害化学物質の環境汚染、排出実態の把握、解明及び排出源対策等を推進したことにより、生活環境の改善や向上に多大な功績が認められた。

第69回 生活と環境全国大会長 感謝状

武藤洋介

表彰理由

埼玉県に入庁後、環境管理事務所で工場・事業所等の規制業務に従事し大気水質環境の保全に貢献し、環境研究機関で主に大気中の温室効果ガス濃度の観測業務に従事し地球環境の保全に貢献したことにより、生活環境の改善や向上に多大な功績が認められた。

第69回 生活と環境全国大会長 感謝状

長森正尚

表彰理由

埼玉県に入庁後、公害センターにおいて産業廃棄物科及び環境工学グループ、環境科学国際センターでは資源循環・廃棄物担当を歴任し、環境分野における研究業務の推進及び行政貢献により、生活環境の改善や向上に多大な功績が認められた。